

經營管理研究科

IV 経営管理研究科

1. 経営管理研究科授業要綱

【経営管理専攻】

(1) 修士課程

A. 修士課程 研究者養成コース

人材育成の目的（ディプロマポリシーに基づく）

大学院経営管理研究科経営管理専攻研究者養成コースの目的は、商学・経営学分野において質の高い研究を実現できる研究者を養成することにあります。

質の高い研究を実現するには、①創造的な研究成果を世に問うことができる高い研究能力、②学界において「知の発展」をグローバルに牽引するリーダーシップ、③社会科学の健全な発展に貢献するための高い倫理性を有しなければなりません。

これらを獲得して学位を授与された者は、経営、マーケティング、会計、金融ならびに関連諸分野を専門とする大学教員や、公的研究機関・民間シンクタンク等で研究員等として、活躍しています。こうした人材は、研究から得られる知見に基づいて産業界が直面する実践的な課題の解決にも有効な示唆を与えることのできる研究者として、社会に貢献することが期待されます。

修了の要件

<修士課程 研究者養成コース>

2年以上在学し、32単位以上（演習12単位以上を含む）を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、本研究科が行う学位論文の審査及び最終試験に合格すること。

<修士課程 研究者養成コース 留学生プログラム>

2年以上在学し、34単位以上（演習12単位以上を含む）を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、本研究科が行う学位論文の審査及び最終試験に合格すること。

演習

修士課程経営管理専攻研究者養成コースの演習は、入学、編入学及び再入学時に所属する専攻の演習指導教員の演習のうちから履修しなければならない。演習を履修するにあたり、指導を志望する演習指導教員に承認を得なければならない。演習指導教員は、後出の表に示してある。修士課程 研究者養成コースにおいては毎年度1科目6単位とする。通年の授業科目である演習を「春学期及び夏学期」又は「秋学期及び冬学期」のいずれか2学期（半年）間履修したときは、所定の単位数の2分の1の単位を与えることができる。

（演習指導教員の変更）

在学期間中における演習指導教員の変更は原則として認めない。

副演習

本研究科（経営学修士コースのうち経営分析プログラム及び経営管理プログラムを除く）及び他の研究科の演習を副演習として履修することができる。副演習の単位は、毎年度4単位を限度として所属専攻の講義科目に代えることができる。

副演習の履修については、毎年度、指導を志望する演習担当教員に承認を得なければならない。

講義

本研究科に開設する科目及び単位数は、後出の講義表に示してある。

講義は、週1回2学期間開講する科目、週2回1学期間開講する科目及びこれらと同程度の時間数で開講される講義で2単位、週1回1学期間開講する科目及びこれらと同程度の時間数で開講される講義で1単位とする。ただし、一部例外の科目があるため、詳細は講義表等を参照のこと。

履修の登録・撤回

学年暦を参照のこと。履修しようとする科目を所定の期間内に登録しなければならない。ただし、登録した履修科目を所定の期間内に撤回できるものとする。留学又は休学等のため所定の期間内に登録ができない場合は、その事由が止んだ後、遅滞なく登録をしなければならない。履修登録の有効期間は、当該届出学期である。したがって、登録年度において不合格となった科目を次年度以降改めて履修する場合は、新たに登録しなければならない。

(重複履修の制限)

単位修得した科目について、同一課程内で同一教員による同一の科目を重複して履修することはできない。これに加えて、以下の科目については異なる教員が担当する場合でも、同一の科目を重複して履修することはできない。

- ・修士課程 研究者養成コースの共通基礎科目
- ・学部発展科目
- ・「学部・修士5年一貫教育プログラム」による入学者については、後述の「科目の履修方法」のうち、修士課程 研究者養成コースの履修の算入外の科目についてはこの限りではない。

科目の履修方法

<修士課程 研究者養成コース>

- ①講義20単位以上、演習12単位以上、合計32単位以上を修得しなければならない。ただし、在学期間の特例を認めた者については、所属するコースの講義の単位をもって6単位まで演習の単位に代えることができる。
- ②所属するコースの科目のうちから16単位以上（演習を含む）を修得しなければならない。
- ③所属する専攻及びコース以外の本研究科の科目（経営学修士コースのうち経営分析プログラム及び経営管理プログラムの科目及び別に指定するものを除く）、他の研究科の科目及び学部発展科目を履修することができる。ただし、学部発展科目を履修する場合には、8単位を超えることはできない。
なお、本項目については、後出の「履修可否一覧表」で詳細を確認すること。
- ④「学部・修士5年一貫教育プログラム（研究者養成コース）」による入学者は、①の講義20単位に、学部4年次に修得した本研究科研究者養成コース科目の中から16単位を限度として修得単位に算入することができる。

<修士課程 研究者養成コース 留学生プログラム>

- ①講義22単位以上（日本語ライティングⅠ・Ⅱ、日本語リーディングⅠ・Ⅱ各1単位を含む）、演習12単位以上、合計34単位以上を修得しなければならない。
- ②所属するコースの科目のうちから16単位以上（演習を含む）を修得しなければならない。
- ③所属する専攻及びコース以外の本研究科の科目（経営学修士コースのうち経営分析プログラム及び経営管理プログラムの科目及び別に指定するものを除く）、他の研究科の科目及び学部発展科目を履修することができる。ただし、学部発展科目を履修する場合には、8単位を超えることはできない。
本項目については、後出の「履修可否一覧表」で詳細を確認すること。

課程修了の認定

修士課程 研究者養成コース修了生には修士（商学）の学位を授与する。

試験

課程修了の認定は試験による。試験には学科試験、学位論文の審査及び最終試験の三種がある。

学科試験は、履修を届け出た科目について、期日を定めて行う。

(学科試験：成績評価及び認定)

講義科目、学位論文の成績は、A+、A、B、C及びFの5段階とし、A+、A、B及びCを合格とし、

Fを不合格とする。演習及び副演習の成績及び最終試験の成績は、E（合格）及びF（不合格）の2段階とする。成績説明請求は学部と同様の様式と期間で実施し、提出先は経営管理研究科事務室とする。

単位の認定は、経営管理専攻教授会及び代議員会の議を経て学長が行う。

（学位論文の審査及び最終試験）

- ①所定の単位を修得して修士の学位を得ようとする者は、学位申請論文を提出しなければならない。ただし、論文提出時から最終試験が終了するまで在学するものとする。
- ②学位申請論文の提出にあたっては、論文の題目届を所定の日までに提出しなければならない。
- ③学位申請論文の提出にあたっては、主論文（簡易製本可）及びその要旨を所定の日までに提出しなければならない。
- ④学位論文の審査及び最終試験は、2名の審査員によって行う。審査員は、提出された題目に基づき、経営管理専攻教授会において選出する。
- ⑤最終試験は、第2年次以降の所定の日までに、学位申請論文を中心として、これに関連する学科についての口頭試問により行う。
- ⑥最終試験に合格した者は、学位論文（ハードカバー）及びその要旨を所定の日までに提出しなければならない。

その他、詳細は本研究科ウェブサイトで指示するので必ず参照すること。

■提出期限一覧（※9月修了は標準修業年限を超えて在学する者のみが対象）

修了年月	2022年9月（※）	2023年3月	2023年9月（※）（予定）
題目届	2022年4月1日（金）	2022年11月30日（水）	2023年4月3日（月）
学位申請論文	2022年5月10日（火）	2023年1月11日（水）	2023年5月10日（水）
学位論文	2022年6月30日（木）	2023年2月13日（月）	2023年6月30日（金）

B. 経営学修士コース 経営分析プログラム

人材育成の目的（ディプロマポリシーに基づく）

大学院経営管理研究科経営管理専攻修士課程経営学修士コースは、企業経営に関わる高度な専門知識と分析能力を備え、企業や団体に指導的役割を果たす高度専門職業人材の育成を目的としています。

具体的には、深い洞察と効果的なコミュニケーション・スキルを併せ持つリーダーを育成すること、高度な専門的スキルに支えられた創造性を持つプロフェッショナルを育成すること、そして社会の健全な発展に貢献するための高い倫理性を備えた人材を育成することをその使命として掲げています。

本コースにおける学習を通じて理論・実務にわたる幅広い知識と深い洞察力を身につけることによって、修了後は、優れた企業・事業のあり方を創造的に構想・実現できる中核的な経営人材として、また高度な専門知識や分析力を駆使する専門職人材として、国内外で社会を牽引していくことが期待されます。

修了の要件

<経営学修士コース 経営分析プログラム>

2年以上在学し、34単位以上（演習8単位以上を含む）を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、本研究科が行う特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格すること。

<経営学修士コース 経営分析プログラム 留学生プログラム>

2年以上在学し、38単位以上（演習10単位以上を含む）を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、本研究科が行う特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格すること。

演習

<経営学修士コース 経営分析プログラム>

演習は、1年次に「古典講読」2単位を、2年次に「ワークショップ」6単位を履修しなければならない。
＜経営学修士コース 経営分析プログラム 留学生プログラム＞

演習は、1年次に「留学生演習Ⅰ」2単位及び「留学生演習Ⅱ」2単位を、2年次に「ワークショップ」6単位を履修しなければならない。

通年の授業科目である演習を「春学期及び夏学期」又は「秋学期及び冬学期」のいずれか2学期（半年）間履修したときは、所定の単位数の2分の1の単位を与えることができる。

（演習指導教員の変更）

演習科目ごとに演習指導教員を指定する。

当該演習科目の受講期間中における演習指導教員の変更は原則として認めない。

副演習

本研究科（経営学修士コースのうち経営分析プログラム及び経営管理プログラムを除く）及び他の研究科の演習を副演習として履修することができる。副演習の単位は、毎年度4単位を限度として選択科目に代えることができる。

副演習の履修については、毎年度、指導を志望する演習担当教員に承認を得なければならない。

講義

本研究科に開設する科目及び単位数は、後出の講義表に示してある。

講義は、週1回2学期間開講する科目、週2回1学期間開講する科目及びこれらと同程度の時間数で開講される講義で2単位、週1回1学期間開講する科目及びこれらと同程度の時間数で開講される講義で1単位とする。ただし、一部例外の科目があるため、詳細は講義表等を参照のこと。

履修の登録・撤回

学年暦を参照のこと。履修しようとする科目を所定の期間内に登録しなければならない。ただし、登録した履修科目を所定の期間内に撤回できるものとする。留学又は休学等のため所定の期間内に登録ができない場合は、その事由が止んだ後、遅滞なく登録をしなければならない。履修登録の有効期間は、当該届出学期である。したがって、登録年度において不合格となった科目を次年度以降改めて履修する場合は、新たに登録しなければならない。

（重複履修の制限）

単位修得した科目について、同一課程内で同一教員による同一の科目を重複して履修することはできない。これに加えて、以下の科目については異なる教員が担当する場合でも、同一の科目を重複して履修することはできない。

- ・修士課程 研究者養成コースの共通基礎科目
- ・経営学修士コース 経営分析プログラムの科目
- ・経営学修士コース 経営管理プログラム（ホスピタリティ・マネジメント・プログラムを含む）の科目
- ・学部発展科目
- ・「学部・修士5年一貫教育プログラム」による入学者については、後述の「科目の履修方法」のうち、経営学修士コース 経営分析プログラムの履修の算入外の科目についてはこの限りではない。
- ・修士課程 経営学修士コース 経営分析プログラム 留学生プログラムにおいては、必修の日本語学習科目（経営学修士コース）に関する1年次の履修単位数が8単位に満たない場合は、同一教員による同一の日本語学習科目（経営学修士コース）を翌年度以降に重複して履修することができる。ただし、履修対象となる授業科目は経営管理専攻長が指定する。

科目の履修方法

＜経営学修士コース 経営分析プログラム＞

①経営学修士コース 経営分析プログラムのコア科目及び選択科目のうちから、12科目24単位以上（ただし、

コア科目のうちから「経営戦略」「マーケティング」「財務会計」「企業財務」の4科目を含む6科目12単位以上、英語コミュニケーション科目2単位、演習8単位（1年次に「古典講読」2単位、2年次に「ワークショップ」6単位）を修得しなければならない。

- ②①の規定にかかわらず、「学部・修士5年一貫教育プログラム」の授業履修資格者のうち、派遣留学のために「古典講読」及び英語コミュニケーション科目を履修できないものが、指定する期日までに経営管理専攻長に願い出を行った場合で、経営管理専攻長が経営管理研究科教授会の議を経てこれを認めたときは、「古典講読」については「留学生演習Ⅱ」に、英語コミュニケーション科目は経営学修士コース経営分析プログラム選択科目のうち、英語で開講される選択科目2単位の修得をもって代えることができるものとする。
- ③「古典講読」及び英語コミュニケーション科目は、受講するクラスを指定する。
- ④「ワークショップ」は、学生から提出された参加願に基づいて選考を行い、受講するクラスを決定する。「ワークショップ」を履修するためには、「古典講読」、英語コミュニケーション科目2単位並びにコア科目の「経営戦略」「マーケティング」「財務会計」「企業財務」のうちから2科目4単位以上を修得しなければならない。
- ⑤所属する専攻及びコース以外の科目、他の研究科の科目及び学部発展科目を履修することができる。ただし、別に指定するものを除く。
なお、本項目については、後出の「履修可否一覧表」で詳細を確認すること。
- ⑥「学部・修士5年一貫教育プログラム（経営学修士コース）」による入学者は、学部4年次に修得した経営学修士コース経営分析プログラムの科目の中から16単位を限度として、①の単位に算入することができる。

<経営学修士コース 経営分析プログラム 留学生プログラム>

- ①経営学修士コース 経営分析プログラムのコア科目及び選択科目のうちから10科目20単位以上（ただし、コア科目のうちから「経営戦略」「マーケティング」「財務会計」「企業財務」の4科目を含む6科目12単位以上）、日本語学習科目（経営学修士コース）8単位、演習10単位（1年次に「留学生演習Ⅰ」2単位及び「留学生演習Ⅱ」2単位、2年次に「ワークショップ」6単位）を修得しなければならない。
- ②「ワークショップ」は、学生から提出された参加願に基づいて選考を行い、受講するクラスを決定する。「ワークショップ」を履修するためには、「留学生演習Ⅰ」及び「留学生演習Ⅱ」、日本語学習科目（経営学修士コース）6単位以上並びにコア科目の「経営戦略」「マーケティング」「財務会計」「企業財務」のうちから1科目2単位以上を修得しなければならない。
- ③所属する専攻及びコース以外の科目、他の研究科の科目及び学部発展科目を履修することができる。ただし、別に指定するものを除く。
なお、本項目については、後出の「履修可否一覧表」で詳細を確認すること。

課程修了の認定

修士課程 経営学修士コース経営分析プログラム（留学生プログラムを含む）修了生には修士（経営）の学位を授与する。

試験

課程修了の認定は試験による。試験には学科試験、学位論文の審査及び最終試験の三種がある。

ただし、学位論文の審査については、特定の課題についての研究の成果（以下、「ワークショップレポート」という。）の審査をもって代える。

学科試験は、履修を届け出た科目について、期日を定めて行う。

（学科試験：成績評価及び認定）

講義科目、ワークショップレポート及び最終試験の成績は、A+、A、B、C及びFの5段階とし、A

十、A、B及びCを合格とし、Fを不合格とする。演習及び副演習の成績は、E（合格）及びF（不合格）の2段階とする。成績説明請求は学部と同様の様式と期間で実施し、提出先は経営管理研究科事務室とする。

単位の認定は、経営管理専攻教授会及び代議員会の議を経て学長が行う。

（学位論文審査及び最終試験）

経営学修士コースでは、学位論文審査をワークショップレポートの審査をもって代えるものとする。

詳細は、演習指導教員より指示される。

- ①所定の単位を修得して修士の学位を得ようとする者は、ワークショップレポートを提出しなければならない。ただし、ワークショップレポート提出時から最終試験が終了するまで在学するものとする。
- ②ワークショップレポートの提出にあたっては、レポートの題目届を所定の日までに提出しなければならない。
- ③ワークショップレポートの提出にあたっては、レポート（簡易製本可）及びその要旨を所定の日までに提出しなければならない。
- ④ワークショップレポートの審査及び最終試験は、2名の審査員によって行う。審査員は、提出された題目に基づき、経営管理専攻教授会において選出する。
- ⑤最終試験は、第2年次以降の所定の日までに、ワークショップレポートを中心として、これに関連する学科についての口頭試問により行う。
- ⑥最終試験に合格した者は、ワークショップレポート（ハードカバー）及びその要旨を所定の日までに提出しなければならない。

その他、詳細は本研究科ウェブサイトで指示するので必ず参照すること。

■提出期限一覧（※9月修了は標準修業年限を超えて在学する者のみが対象）

修了年月	2022年9月（※）	2023年3月	2023年9月（※）（予定）
題目届	2022年4月1日（金）	2022年10月28日（金）	2023年4月3日（月）
ワークショップレポート（学位申請時）	2022年5月10日（火）	2023年1月11日（水）	2023年5月10日（水）
ワークショップレポート（最終時）	2022年6月30日（木）	2023年2月13日（月）	2023年6月30日（金）

C. 経営学修士コース 経営管理プログラム

人材育成の目的（ディプロマポリシーに基づく）

大学院経営管理研究科経営管理専攻修士課程経営学修士コースは、企業経営に関わる高度な専門知識と分析能力を備え、企業や団体に指導的役割を果たす高度専門職業人材の育成を目的としています。

具体的には、深い洞察と効果的なコミュニケーション・スキルを併せ持つリーダーを育成すること、高度な専門的スキルに支えられた創造性を持つプロフェッショナルを育成すること、そして社会の健全な発展に貢献するための高い倫理性を備えた人材を育成することをその使命として掲げています。

本コースにおける学習を通じて理論・実務にわたる幅広い知識と深い洞察力を身につけることによって、修了後は、優れた企業・事業のあり方を創造的に構想・実現できる中核的な経営人材として、また高度な専門知識や分析力を駆使する専門職人材として、国内外で社会を牽引していくことが期待されます。

経営学修士コース ホスピタリティ・マネジメント・プログラムは、経営管理プログラムのサブプログラムとして、近年、重要度を増しつつあるホスピタリティ産業でのマネジメントの高度化に向けて、一般的なマネジメントに関する科目を「経営管理プログラム」と共有するとともに、ホスピタリティ業界に固有の知識や思考力を専用科目で学ぶことで、高度化・多様化するホスピタリティ業界の状況に対応できる人材を育成することを目的としています。

修了の要件

<経営学修士コース 経営管理プログラム>

2年以上在学し、34単位以上（演習10単位以上を含む）を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、本研究科が行う特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格すること。

<経営学修士コース 経営管理プログラム ホスピタリティ・マネジメント・プログラム>

2年以上在学し、34単位以上（指定科目及び演習10単位以上を含む）を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、本研究科が行う特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格すること。

なお、ホスピタリティ・マネジメント・プログラムを修了した者については、プログラム修了証を学位記とあわせて授与する。

演習

演習は、1年次に「導入ワークショップ」2単位及び「基礎ワークショップ」2単位を、2年次に「ワークショップ」6単位を履修しなければならない。

通年の授業科目である演習を「春学期及び夏学期」又は「秋学期及び冬学期」のいずれか2学期（半年）間履修したときは、所定の単位数の2分の1の単位を与えることができる。

(演習指導教員の変更)

演習科目ごとに演習指導教員を指定する。

当該演習科目の受講期間中における演習指導教員の変更は原則として認めない。

副演習

本研究科（経営学修士コースのうち経営分析プログラム及び経営管理プログラムを除く）及び他の研究科の演習を副演習として履修することができる。副演習の単位は、毎年度4単位を限度として選択科目に代えることができる。

副演習の履修については、毎年度、指導を志望する演習担当教員に承認を得なければならない。

講義

本研究科に開設する科目及び単位数は、後出の講義表に示してある。

講義は、週1回2学期間開講する科目、週2回1学期間開講する科目及びこれらと同程度の時間数で開講される講義で2単位、週1回1学期間開講する科目及びこれらと同程度の時間数で開講される講義で1単位とする。ただし、一部例外の科目があるため、詳細は講義表等を参照のこと。

履修の登録・撤回

学年暦を参照のこと。履修しようとする科目を所定の期間内に登録しなければならない。ただし、登録した履修科目を所定の期間内に撤回できるものとする。留学又は休学等のため所定の期間内に登録できない場合は、その事由が止んだ後、遅滞なく登録をしなければならない。履修登録の有効期間は、当該届出学期である。したがって、登録年度において不合格となった科目を次年度以降改めて履修する場合は、新たに登録しなければならない。

(重複履修の制限)

単位修得した科目について、同一課程内で同一教員による同一の科目を重複して履修することはできない。これに加えて、以下の科目については異なる教員が担当する場合でも、同一の科目を重複して履修することはできない。

- ・修士課程 研究者養成コースの共通基礎科目
- ・経営学修士コース 経営管理プログラム（ホスピタリティ・マネジメント・プログラムを含む）の科目
- ・学部発展科目

科目の履修方法

<経営学修士コース 経営管理プログラム>

- ①経営学修士コース 経営管理プログラムのコア科目及び選択科目のうちから、12科目24単位以上(ただし、コア科目のうちから「経営戦略」「マーケティング」「財務会計」「企業財務」の4科目を含む6科目12単位以上)、演習10単位(1年次に「導入ワークショップ」2単位及び「基礎ワークショップ」2単位、2年次に「ワークショップ」6単位)を修得しなければならない。
- ②「導入ワークショップ」は、受講するクラスを指定する。
- ③「基礎ワークショップ」及び「ワークショップ」は、学生から提出された参加願に基づいて選考を行い、受講するクラスを決定する。
- 「ワークショップ」を履修するためには、「導入ワークショップ」、「基礎ワークショップ」並びにコア科目の「経営戦略」「マーケティング」「財務会計」「企業財務」のうちから2科目4単位以上を修得しなければならない。
- ④所属する専攻及びコース以外の科目、他の研究科の科目及び学部発展科目を履修することができる。ただし、別に指定するものを除く。

なお、本項目については、後出の「履修可否一覧表」で詳細を確認すること。

<経営学修士コース 経営管理プログラム ホスピタリティ・マネジメント・プログラム>

- ①経営学修士コース 経営管理プログラムのコア科目及び選択科目のうちから、12科目24単位以上(ただし、コア科目のうちから「経営戦略」「マーケティング」「財務会計」「企業財務」の4科目を含む6科目12単位以上、選択科目のうちから「ホスピタリティ・マネジメント」「ホスピタリティ・マーケティング」の2科目4単位及びホスピタリティ特別講義のうちから1科目1単位以上を含む)、演習10単位(1年次に「導入ワークショップ」2単位及び「基礎ワークショップ」2単位、2年次に「ワークショップ」6単位)を修得しなければならない。
- ②「導入ワークショップ」、「基礎ワークショップ」及び「ワークショップ」は、それぞれホスピタリティに関するものを受講するものとする。
- 「ワークショップ」を履修するためには、「導入ワークショップ」、「基礎ワークショップ」並びにコア科目の「経営戦略」「マーケティング」「財務会計」「企業財務」のうちから2科目4単位以上を修得しなければならない。
- ③所属する専攻及びコース以外の科目、他の研究科の科目及び学部発展科目を履修することができる。ただし、別に指定するものを除く。
- なお、本項目については、後出の「履修可否一覧表」で詳細を確認すること。

課程修了の認定

修士課程 経営学修士コース経営管理プログラム修了生には修士(経営)の学位を授与する。

試験

課程修了の認定は試験による。試験には学科試験、学位論文の審査及び最終試験の三種がある。

ただし、学位論文の審査については、特定の課題についての研究の成果(以下、「ワークショップレポート」という。)の審査をもって代える。

学科試験は、履修を届け出た科目について、期日を定めて行う。

(学科試験：成績評価及び認定)

講義科目、ワークショップレポート及び最終試験の成績は、A+、A、B、C及びFの5段階とし、A+、A、B及びCを合格とし、Fを不合格とする。演習及び副演習の成績は、E(合格)及びF(不合格)の2段階とする。成績説明請求は学部と同様の様式と期間で実施し、提出先は経営管理研究科事務室とする。

単位の認定は、経営管理専攻教授会及び代議員会の議を経て学長が行う。

(学位論文審査及び最終試験)

経営学修士コースでは、学位論文審査をワークショップレポートの審査をもって代えるものとする。
詳細は、演習指導教員より指示される。

- ① 所定の単位を修得して修士の学位を得ようとする者は、ワークショップレポートを提出しなければならない。ただし、ワークショップレポート提出時から最終試験が終了するまで在学するものとする。
- ② ワークショップレポートの提出にあたっては、レポートの題目届を所定の日までに提出しなければならない。
- ③ ワークショップレポートの提出にあたっては、レポート（簡易製本可）及びその要旨を提出しなければならない。
- ④ ワークショップレポートの審査及び最終試験は、2名の審査員によって行う。審査員は、提出された題目に基づき、経営管理専攻教授会において選出する。
- ⑤ 最終試験は、第2年次以降の所定の日までに、ワークショップレポートを中心として、これに関連する学科について口頭試問により行う。
- ⑥ 最終試験に合格した者は、ワークショップレポート（ハードカバー）及びその要旨を所定の日までに提出しなければならない。

その他、詳細は本研究科ウェブサイトで指示するので必ず参照すること。

■ 提出期限一覧（※9月修了は標準修業年限を超えて在学する者のみが対象）

修了年月	2022年9月（※）	2023年3月	2023年9月（※）（予定）
題目届	2022年4月1日（金）	2022年10月28日（金）	2023年4月3日（月）
ワークショップレポート（学位申請時）	2022年5月10日（火）	2023年1月11日（水）	2023年5月10日（水）
ワークショップレポート（最終時）	2022年6月30日（木）	2023年2月13日（月）	2023年6月30日（金）

D. 経営学修士コース 金融戦略・経営財務プログラム

人材育成の目的（ディプロマポリシーに基づく）

現代の金融業務に必要な幅広い知識を備え、問題を定性的・概念的に深く理解し、最先端の学問と実務の成果を利用して、直面する実際の問題に自らが判断し、経営上の判断に活かすことができる高度な能力を持った専門的職業人の育成を目的としている。

修了の要件

2年以上在学し、34単位以上（演習8単位以上を含む）を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、本研究科が行う学位論文の審査及び最終試験に合格すること。

演習

修士課程に入学、編入学及び再入学した者は、特定の演習を履修しなければならない。

演習指導教員は、後出の表に示してある。

修士課程 経営学修士コース金融戦略・経営財務プログラムにおいては毎年度2科目4単位とする。

（演習指導教員の変更）

演習指導教員の変更を希望する場合は、「演習・論文指導教員変更願」を提出し、許可を得なければならない。

副演習

金融戦略・経営財務プログラムの副演習を履修することができるが、本研究科及び他の研究科の演習を副演習として履修することはできない。

副演習の単位は、毎年度4単位を限度として、金融戦略・経営財務プログラムは所属専攻の講義科目に、代えることができる。

講義

本研究科に開設する科目及び単位数は、後出の講義表に示してある。

講義は、週1回二学期間開講する科目、週2回一学期間開講する科目及びこれらと同程度の時間数で開講される講義で2単位、週1回一学期間開講する科目及びこれらと同程度の時間数で開講される講義で1単位とする。ただし、一部例外の科目があるため、詳細は講義表等を参照のこと。

履修の登録・撤回

学年暦を参照のこと。履修しようとする科目を所定の期間内に登録しなければならない。ただし、登録した履修科目を所定の期間内に撤回できるものとする。留学又は休学等のため所定の期間に登録ができない場合は、その事由が止んだ後、遅滞なく登録をしなければならない。履修登録の有効期間は、当該届出学期である。したがって、登録年度において不合格となった科目を次年度以降改めて履修する場合は、新たに登録しなければならない。

(重複履修の制限)

金融戦略・経営財務プログラムでは、講義科目を重複して履修することができる。ただし、重複して修得した科目の単位は修了要件の単位数に算入できない。

科目の履修方法

<経営学修士コース 金融戦略・経営財務プログラムの履修>

(1) 経営学修士コース 金融戦略・経営財務プログラムでは、講義科目26単位以上、演習8単位以上、合計34単位以上を修得しなければならない。

ただし、以下の2つの条件を満たさなければならない

- i. 講義科目については、所属するプログラムの講義科目のうちから18単位以上を修得しなければならない。
- ii. 上記iの18単位のうち、基礎科目である「ファイナンス理論の基礎」「金融データ分析の基礎」「コーポレートファイナンスの基礎」「会計・バリュエーションの基礎」「ファイナンス理論」「コンピュテーショナル・ファイナンス」「金融数理の基礎」の7科目のうちから4科目(8単位)以上修得しなければならない。

(2) 所属するプログラム以外の本研究科の講義や、他の研究科の講義についても履修が可能な場合がある。本研究科の他プログラムや他コース及び他研究科において履修可能な講義科目の範囲や条件については後出「履修可否一覧表」で確認のこと。

課程修了の認定

修士課程の修了を認定された者のうち経営学修士コース修了生には修士(経営)の学位を授与する。

試験

課程修了の認定は試験による。試験には学科試験、論文試験及び最終試験の三種がある。

(学科試験)

履修を届け出た科目について、期日を定めて行う。

-成績評価及び認定-

講義、修士課程の学位論文及び最終試験の成績は、A+、A、B、C及びFの5段階とし、A+、A、B及びCを合格とし、Fを不合格とする。

演習及び副演習の成績及び最終試験の成績は、E(合格)及びF(不合格)の2段階とする。

単位の認定は、経営管理専攻教授会及び代議員会の議を経て学長が行う。

(学位論文審査及び最終試験)

(1) 修士課程の所定の単位を修得して修士の学位を得ようとする者は、学位論文を提出しなければならない。ただし、それを提出する学期に在学するものとする。

- (2) 学位申請論文の提出にあたっては、論文の題目届を2022年5月27日（金）又は2022年12月19日（月）までに提出する。
- (3) 学位論文の提出にあたっては、修士論文の『学位論文原稿の提出』及び『プレ報告会での発表』を以下の期日に行わなければならない。

項目	9月修了者	3月修了者
学位論文原稿の提出	2022年4月28日（木）	2022年11月18日（金）
プレ報告会での発表	未定	2022年12月12日（月）
修士論文（優秀論文）発表会	3月下旬	

- (4) 学位論文は、学年暦で定める所定の期日までに、経営管理研究科長あてに提出するものとする。
2022年度の締切は【2022年6月1日（水）20時又は2023年1月6日（金）20時】
- (5) 学位論文としては、主論文及びその要旨を記載したものを提出しなければならない。（提出部数及び提出方法等については別途指示する。）
- (6) 学位論文審査及び最終試験は、2名の審査員によって行う。審査員は、提出論文の題目に基づき、経営管理専攻教授会において選出する。
- (7) 最終試験は、第2年次の所定の期日までに学位論文を中心として、これに関連する学科について口頭試問により行う。

（2）博士後期課程

A. 博士後期課程 研究者養成コース

人材育成の目的（ディプロマポリシーに基づく）

大学院経営管理研究科経営管理専攻研究者養成コースの目的は、商学・経営学分野において質の高い研究を実現できる研究者を養成することにあります。

質の高い研究を実現するには、①創造的な研究成果を世に問うことができる高い研究能力、②学界において「知の発展」をグローバルに牽引するリーダーシップ、③社会科学の健全な発展に貢献するための高い倫理性を有しなければなりません。

これらを獲得して学位を授与された者は、経営、マーケティング、会計、金融ならびに関連諸分野を専門とする大学教員や、公的研究機関・民間シンクタンク等で研究員等として、活躍しています。こうした人材は、研究から得られる知見に基づいて産業界が直面する実践的な課題の解決にも有効な示唆を与えることのできる研究者として、社会に貢献することが期待されます。

修了の要件

3年以上在学し、20単位以上（演習18単位以上を含む）を修得し、かつ、研究指導教員による必要な研究指導を受けた上、本研究科が行う学位論文の審査及び最終試験に合格すること。

研究指導

博士後期課程に入学、進学、編入学及び再入学した者は、研究指導教員を登録し、在学期間を通じて定期的・継続的に研究指導を受けなければならない。研究指導教員は、後出の表に示してある。

（研究指導教員の変更）

研究指導教員の変更は原則として認めない。

演習

博士後期課程に入学、進学、編入学及び再入学した者は、所属する研究領域の演習（毎年度1科目6単位）を履修しなければならない。演習を履修するにあたり、所属する研究領域の演習を担当する教員（演習指導教員）及び研究指導教員に承認を得なければならない。

通年の授業科目である演習を「春学期及び夏学期」又は「秋学期及び冬学期」のいずれか2学期（半年）間履修したときは、所定の単位数の2分の1の単位を与えることができる。

（演習指導教員の変更）

当該演習科目の受講期間中における演習指導教員の変更は原則として認めない。

副演習

他の領域の研究領域演習を副演習として履修する場合には、当該演習を担当する教員及び研究指導教員に承認を得なければならない。

講義

本研究科に開設する科目及び単位数は、後出の講義表に示してある。

講義は、週1回2学期間開講する科目、週2回1学期間開講する科目及びこれらと同程度の時間数で開講される講義で2単位、週1回2学期間開講する科目及びこれらと同程度の時間数で開講される講義で1単位とする。ただし、一部例外の科目があるため、詳細は講義表等を参照のこと。

履修の登録・撤回

学年暦を参照のこと。履修しようとする科目を所定の期間内に登録しなければならない。ただし、登録した履修科目を所定の期間内に撤回できるものとする。留学又は休学等のため所定の期間内に登録ができない場合は、その事由が止んだ後、遅滞なく登録をしなければならない。履修登録の有効期間は、当該届出学期である。したがって、登録年度において不合格となった科目を次年度以降改めて履修する場合は、新たに登録しなければならない。

（重複履修の制限）

単位修得した科目について、同一課程内で同一教員による同一の科目を重複して履修することはできない。これに加えて、以下の科目については異なる教員が担当する場合でも、同一の科目を重複して履修することはできない。

- ・修士課程 研究者養成コースの共通基礎科目
- ・学部発展科目

科目の履修方法

「研究領域演習」（毎年度1科目6単位）18単位、「研究倫理と論文作法」2単位を含む合計20単位以上を修得しなければならない。ただし、経営管理専攻教授会及び代議員会が在学期間の特例を認めた者については、所属するコースの講義の単位をもって12単位まで「研究領域演習」の単位に代えることができる。また、研究科長が認めた者については、所属するコースの授業科目2単位の修得をもって「研究倫理と論文作法」2単位に代えることができる。

課程修了の認定

博士後期課程 研究者養成コース修了生には博士（商学）の学位を授与する。

試験

課程修了の認定は試験による。試験には学科試験、学位論文の審査及び最終試験の三種がある。

学科試験は、履修を届け出た科目について、期日を定めて行う。

（学科試験：成績評価及び認定）

講義科目及び最終試験の成績は、A+、A、B、C及びFの5段階とし、A+、A、B及びCを合格とし、Fを不合格とする。演習及び副演習の成績、学位論文、最終試験の成績は、E（合格）及びF（不合格）の2段階とする。成績説明請求は学部と同様の様式と期間で実施し、提出先は経営管理研究科事務室とする。

単位の認定は、経営管理専攻教授会及び代議員会の議を経て学長が行う。

学位論文の提出及び審査のプロセス（在学者）

所定の単位を修得して博士の学位を得ようとする者は、学位申請論文を提出しなければならない。ただし、論文提出時から最終試験が終了するまで在学するものとする。

①論文指導委員会の設立

2年次以上に在学する者が、研究指導教員による論文指導を受けた上で、研究指導教員を含む2名の教員（本学他研究科の教員も可）に申請し、その承認を得た上で設立される。論文指導委員会が設立された場合、所定の日までに経営管理研究科事務室に届け出るものとする。

②学位論文計画書（プロポーザル）の提出

- i. 学生は論文提出の1年前までに、学位論文計画書（プロポーザル）を論文指導委員会に提出し、審査を受けるものとする。プロポーザルには、論文に関連した分野の幅広い文献レビューを含むものとする。
- ii. プロポーザルの審査に合格した者のみ論文執筆段階に進むことができる。
- iii. プロポーザルの審査に合格した場合、所定の日までに経営管理研究科事務室に届け出るものとする。

③学位申請論文の提出にあたっては、論文の題目届を所定の日までに提出しなければならない。

④学位申請論文の提出にあたっては、主論文（簡易製本可）及びその要旨を所定の日までに提出しなければならない。なお、参考論文、書評等を併せて提出することができる。

⑤学位論文の審査及び最終試験

3名の審査員によって行う。審査員は、提出された題目に基づき、経営管理専攻教授会において選出する。最終試験は、口頭試問によって行う。

⑥最終試験に合格した者は、学位論文及びその要旨を所定の日までに提出しなければならない。

その他、詳細は本研究科ウェブサイトで指示するので必ず参照すること。

■提出期限一覧（※7月修了は標準修業年限を超えて在学する者のみが対象）

修了年月	2022年7月（※）	2023年3月	2023年7月（※）（予定）
題目届	2022年4月1日（金）	2022年11月30日（水）	2023年4月3日（月）
学位申請論文	2022年5月10日（火）	2023年1月11日（水）	2023年5月10日（水）
学位論文	2022年6月30日（木）	2023年2月13日（月）	2023年6月30日（金）

学位論文の提出及び審査のプロセス（単位修得者）

①博士後期課程 研究者養成コースの単位を修得し、かつ、博士後期課程に3年以上在学した者が退学する場合、これを博士課程単位修得者と認める。博士課程単位修得者が退学後に本研究科において博士の学位論文の審査を受ける場合、在学中に学位論文計画書（プロポーザル）の審査に合格していなければならない。

なお、博士課程単位修得者が、退学の日から5年以内に学位論文を提出した場合、学位規則第8条第2項に定める試問は免除する。

②博士課程単位修得者は、単位を修得した年度の末日をもって退学する。ただし、経営管理専攻教授会及び代議員会の許可を得たときは、その後も在学することができる。

③博士後期課程 研究者養成コースの単位を修得して、退学を希望する者は、「退学願」を提出するものとする。

④博士後期課程 研究者養成コースの単位を修得して、引き続き同課程に在学を希望する者は、「在学許可申請書」を提出するものとする。

上記③、④いずれの手続きもしなかった者は、学則第43条に定める在学年限における在学者である旨を申し出るものとする。

B. 博士後期課程 研究者養成コース イノベーション・マネジメント・プログラム

人材育成の目的（ディプロマポリシーに基づく）

大学院経営管理研究科経営管理専攻博士後期課程イノベーション・マネジメント・プログラムは、理工系のバックグラウンドと企業経営に関わる高度な専門知識と分析能力を備え、新たな技術を企業成長や事業戦略に結び付けることができる高度経営人材や高度経営専門職の育成を目的としています。

具体的には、技術系人材としての実績や経験を有し、深い洞察と効果的なコミュニケーション・スキルを併せ持つリーダーを育成すること、高度な専門的スキルに支えられた創造性を持つプロフェッショナルを育成すること、そして社会の健全な発展に貢献するための高い倫理性を備えた人材を育成することをその使命として掲げています。

本プログラムにおける学習を通じて経営管理全般の知識と企業経営・イノベーションにかかわる高度な分析力と洞察力を身につけることによって、修了後は、先端技術を基盤とする企業経営の中核人材として、国内外で社会を牽引していくことが期待されます。

修了の要件

3年以上在学し、34単位以上（演習18単位以上を含む。ただし、本研究科経営学修士コース経営分析プログラム又は経営管理プログラム修了者（本学商学研究科経営学修士コース又は専修コース修了者を含む）については20単位以上（演習18単位以上を含む））を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、本研究科が行う学位論文の審査及び最終試験に合格すること。なお、イノベーション・マネジメント・プログラムを修了した者については、プログラム修了証を学位記とあわせて授与する。

演習

博士後期課程に入学、進学、編入学及び再入学した者は、特定の演習（毎年度1科目6単位）を履修しなければならない。演習指導教員は、後出の表に示してある。

通年の授業科目である演習を「春学期及び夏学期」又は「秋学期及び冬学期」のいずれか2学期（半年）間履修したときは、所定の単位数の2分の1の単位を与えることができる。

（演習指導教員の変更）

演習指導教員の変更は原則として認めない。

副演習

本研究科（経営学修士コースのうち経営分析プログラム及び経営管理プログラムを除く）及び他の研究科の演習を副演習として履修することができる。副演習の単位は、毎年度4単位を限度として所属コースの講義科目に代えることができる。

副演習の履修については、毎年度、指導を志望する演習担当教員に承認を得なければならない。

講義

本研究科に開設する科目及び単位数は、後出の講義表に示してある。

講義は、週1回2学期間開講する科目、週2回1学期間開講する科目及びこれらと同程度の時間数で開講される講義で2単位、週1回1学期間開講する科目及びこれらと同程度の時間数で開講される講義で1単位とする。ただし、一部例外の科目があるため、詳細は講義表等を参照のこと。

履修の登録・撤回

学年暦を参照のこと。履修しようとする科目を所定の期間内に登録しなければならない。ただし、登録した履修科目を所定の期間内に撤回できるものとする。留学又は休学等のため所定の期間内に手続きができない場合は、その事由が止んだ後、遅滞なく登録をしなければならない。履修登録の有効期間は、当該届出学期である。したがって、登録年度において不合格となった科目を次年度以降改めて履修する場合は、新たに登録しなければならない。

(重複履修の制限)

単位修得した科目について、同一課程内で同一教員による同一の科目を重複して履修することはできない。これに加えて、以下の科目については異なる教員が担当する場合でも、同一の科目を重複して履修することはできない。

- ・修士課程 研究者養成コースの共通基礎科目
- ・修士課程 経営管理プログラム（ホスピタリティ・マネジメント・プログラムも含む）の科目

科目の履修方法

①博士後期課程 研究者養成コース イノベーション・マネジメント・プログラムの講義（600番台科目）2単位以上、経営学修士コース 経営管理プログラムのコア科目及び選択科目のうちから7科目14単位以上（ただし、「経営戦略」「マーケティング」「財務会計」「企業財務」の4科目8単位を含む）、演習（毎年度1科目6単位）18単位以上、合計34単位以上を修得しなければならない。

ただし、本研究科経営学修士コース経営分析プログラム又は経営管理プログラム修了者（本学商学研究科経営学修士コース又は専修コース修了者を含む）については、博士後期課程 研究者養成コース イノベーション・マネジメント・プログラムの講義（600番台科目）2単位以上、演習（毎年度1科目6単位）18単位以上、合計20単位以上の修得でよいものとする。

②本研究科 研究者養成コース及び他の研究科の講義を履修することができる。ただし、これらの講義の単位は、修了要件には含めないものとする。

本項目については、後出の「履修可否一覧表」で詳細を確認すること。

課程修了の認定

博士後期課程 イノベーション・マネジメント・プログラム修了生には博士（経営）の学位を授与する。

試験

課程修了の認定は試験による。試験には学科試験、学位論文の審査及び最終試験の三種がある。

学科試験は、履修を届け出た科目について、期日を定めて行う。

(学科試験：成績評価及び認定)

講義科目及び最終試験の成績は、A+、A、B、C及びFの5段階とし、A+、A、B及びCを合格とし、Fを不合格とする。演習及び副演習の成績、学位論文、最終試験の成績は、E（合格）及びF（不合格）の2段階とする。成績説明請求は学部と同様の様式と期間で実施し、提出先は経営管理研究科事務室とする。

単位の認定は、経営管理専攻教授会及び代議員会の議を経て学長が行う。

学位論文の提出および審査のプロセス（在学者）

所定の単位を修得して博士の学位を得ようとする者は、学位申請論文を提出しなければならない。ただし、論文提出時から最終試験が終了するまで在学するものとする。

①論文指導委員会の設立

2年次以上に在学する者が、指導教員を含む2名の教員（本学他研究科の教員も可）に申請し、その承認を得た上で設立される。論文指導委員会が設立された場合、所定の日までに経営管理研究科事務室に届け出るものとする。

②学位論文計画書（プロポーザル）の提出

- i. 学生は論文提出の1年前までに、学位論文計画書（プロポーザル）を論文指導委員会に提出し、審査を受けるものとする。プロポーザルには、論文に関連した分野の幅広い文献レビューを含むものとする。
- ii. プロポーザルの審査に合格した者のみ論文執筆段階に進むことができる。

iii. プロポーザルの審査に合格した場合、所定の日までに経営管理研究科事務室に届け出るものとする。

③学位申請論文の提出にあたっては、論文の題目届を所定の日までに提出しなければならない。

④学位申請論文の提出にあたっては、主論文（簡易製本可）及びその要旨を所定の日までに提出しなければならない。なお、参考論文、書評等を併せて提出することができる。

⑤学位論文の審査及び最終試験

3名の審査員によって行う。審査員は、提出された題目に基づき、経営管理専攻教授会において選出する。最終試験は、口述試験によって行う。

⑥最終試験に合格した者は、学位論文及びその要旨を所定の日までに提出しなければならない。

その他、詳細は本研究科ウェブサイトで指示するので必ず参照すること。

■提出期限一覧（※7月修了は標準修業年限を超えて在学する者のみが対象）

修了年月	2022年7月（※）	2023年3月	2023年7月（※）（予定）
題目届	2022年4月1日（金）	2022年11月30日（水）	2023年4月3日（月）
学位申請論文	2022年5月10日（火）	2023年1月11日（水）	2023年5月10日（水）
学位論文	2022年6月30日（木）	2023年2月13日（月）	2023年6月30日（金）

学位論文の提出及び審査のプロセス（単位修得者）

①博士後期課程 研究者養成コースの単位を修得し、かつ、博士後期課程に3年以上在学した者が退学する場合、これを博士課程単位修得者と認める。博士課程単位修得者が退学後に本研究科において博士の学位論文の審査を受ける場合、在学中に学位論文計画書（プロポーザル）の審査に合格していなければならない。

なお、博士課程単位修得者が、退学の日から5年以内に学位論文を提出した場合、学位規則第8条第2項に定める試問は免除する。

②博士課程単位修得者は、単位を修得した年度の末日をもって退学する。ただし、経営管理専攻教授会及び代議員会の許可を得たときは、その後も在学することができる。

③博士後期課程 研究者養成コースの単位を修得して、退学を希望する者は、「退学願」を提出するものとする。

④博士後期課程 研究者養成コースの単位を修得して、引き続き同課程に在学を希望する者は、「在学許可申請書」を提出するものとする。

上記③、④いずれの手続きもしなかった者は、学則第43条に定める在学の年限における在学者である旨を申し出るものとする。

C. 博士後期課程 金融戦略・経営財務プログラム

人材育成の目的（ディプロマポリシーに基づく）

現代の金融業務に必要な幅広い知識を備え、問題を定性的・概念的に深く理解し、最先端の学問と実務の成果を利用して、直面する実際の問題に自らが判断し、経営上の判断に活かすことができる高度な能力を持った専門的職業人の育成を目的としている。

修了の要件

3年以上在学し、演習12単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、本研究科が行う学位論文の審査及び最終試験に合格することとする。

演習

博士後期課程に入学、進学、編入学及び再入学した者は、特定の演習を履修しなければならない。

演習指導教員は、後出の表に示してある。

博士後期課程 金融戦略・経営財務プログラムにおいては毎年度2科目4単位とする。

(演習指導教員の変更)

演習指導教員の変更を希望する場合は、「演習・論文指導教員変更願」を提出し、許可を得なければならない。

副演習

金融戦略・経営財務プログラムの副演習を履修することができるが、本研究科及び他の研究科の演習を副演習として履修することはできない。

副演習の単位は、毎年度4単位を限度として、金融戦略・経営財務プログラムは所属専攻の講義科目に代えることができる。

講義

本研究科に開設する科目及び単位数は、後出の講義表に示してある。

講義は、週1回二学期間開講する科目、週2回一学期間開講する科目及びこれらと同程度の時間数で開講される講義で2単位、週1回一学期間開講する科目及びこれらと同程度の時間数で開講される講義で1単位とする。ただし、一部例外の科目があるため、詳細は講義表等を参照のこと。

履修の届出

学年暦を参照のこと。留学又は休学等のため所定の期間に手続きができない場合は、その事由が止んだ後、遅滞なく登録をしなければならない。履修登録の有効期間は、当該届出学期である。したがって、登録年度において不合格となった科目を次年度以降改めて履修する場合は、新たに登録をしなければならない。

(重複履修の制限)

金融戦略・経営財務プログラムでは、講義科目を重複して履修することができる。ただし、重複して修得した科目の単位は修了要件の単位数に算入できない。

科目の履修方法

博士後期課程 金融戦略・経営財務プログラムにおいては、演習12単位以上を修得しなければならない。

ただし、経営管理専攻教授会及び経営管理研究科代議員会が在学期間の特例を認めた者については、所属するコースの講義科目の単位をもって8単位まで演習の単位に代えることができる。

課程修了の認定

博士後期課程の修了を認定された者のうち、金融戦略・経営財務プログラム修了生には博士(経営)の学位を授与する。

試験

課程修了の認定は試験による。試験には学科試験、論文試験及び最終試験の三種がある。

(学科試験)

履修を届け出た科目について、期日を定めて行う。

-成績評価及び認定-

講義、修士課程の学位論文及び最終試験の成績は、A+、A、B、C及びFの5段階とし、A+、A、B及びCを合格とし、Fを不合格とする。

演習及び副演習の成績、博士後期課程の学位論文、博士後期課程在学者の博士学位論文提出資格審査、博士課程単位修得論文の成績及び最終試験の成績は、E(合格)及びF(不合格)の2段階とする。

単位の認定は、経営管理専攻教授会及び代議員会の議を経て学長が行う。

(学位論文審査及び最終試験)

在学者の学位論文提出プロセス

博士後期課程の博士学位論文提出資格審査試験

博士学位論文提出資格審査試験(以下、資格試験)は、博士後期課程1年次又は2年次の夏学期末、

冬学期末（休学期間を除く）に、博士学位論文計画書の審査及び関連ある学科について筆記又は口頭試問により行う。資格審査を受けようとする者は、別に指定される期日までに博士学位論文計画書4通を本研究科長宛てに提出するものとする。資格審査は、専攻教授会が選出した2人の審査員により行う。審査員は、提出計画書の題目に基づき、専攻教授会において選出する。

資格試験は、博士学位論文を完成するために十分な基礎・専門知識、及び研究計画と見通しを有しているかを判定することを目的とする。資格試験合格のためには、受験者は博士学位論文の主題に関連する基礎知識と具体的な研究計画を示すことが求められる。

- ① 資格試験は口頭で行われる。これには出題された問題を白板上で解くことも含まれる。試験時間は全体で1時間30分であり、その内訳の目安は基礎学力30分、研究計画60分である。ただし、必要に応じて試験時間の延長及び短縮が行われるものとする。口述試験の内容については、別途金融戦略・経営財務プログラムからの指示を確認すること。
- ② 資格試験受験者は、2022年6月1日（水）20時又は2023年1月6日（金）20時までに、博士学位論文計画書を事務室に提出するものとする。（提出部数及び提出方法等については別途指示する。）試験日までに、金融戦略・経営財務プログラムの教員1名から、試験合格後の研究指導を行うという内諾を得ること。試験日時・実施場所は、金融戦略・経営財務プログラムから、試験結果については、千代田キャンパス事務室から試験資格受験者に連絡する。
- ③ 博士学位論文計画書として、以下のふたつを提出すること。具体的な形式については、別途金融戦略・経営財務プログラムからの指示を確認すること。
 - ・研究プロポーザル（博士学位論文の主題とする研究の動機、先行研究との位置づけ、方法論等について論じたもの。）
 - ・実績報告書（研究に関連する基礎知識に関して学習した内容を簡潔にまとめたもの。）

学位論文審査及び最終試験

博士後期課程金融戦略・経営財務プログラムの所定の単位を修得して博士の学位を得ようとする者は、演習指導教員の助言を得て、学位論文を提出しなければならない。ただし、論文審査期間中及び最終試験が終了するまで在学するものとする。

学位申請論文の提出にあたっては、論文の題目届を2022年5月27日（金）又は2022年12月19日（月）までに提出する。

学位申請論文の提出にあたっては、その前年度以前に博士学位論文提出資格審査試験の審査を経なければならない。

学位申請論文は、2022年6月1日（水）20時又は2023年1月6日（金）20時までに、経営管理研究科長宛てに提出するものとする。

- ① 学位申請論文としては、主論文及びその要旨を提出しなければならない。なお、参考論文、書評等を併せて提出することができる。（提出部数及び提出方法等については別途指示する。）
- ② 学位論文審査及び最終試験は、3名の審査員によって行う。審査員の選出は、提出論文の題目に基づき、経営管理専攻教授会において選出する。
- ③ 最終試験は、口述試験によって行う。
- ④ 博士学位論文審査の期間は、原則として審査員選出後3ヶ月以内とする。
- ⑤ 最終試験は、博士学位論文の審査終了後1ヶ月以内に行う。

【国際企業戦略専攻】

人材育成の目的

専門職学位課程・博士後期課程 国際企業戦略専攻は、西洋が生んだマネジメントに関する最良の知識と

東洋で生まれた知識とを統合し、グローバルに適用する経営戦略に携わるプロフェッショナルの人材を養成することを目的とする。具体的には、日本の企業経営に欠けている戦略や技術の専門知識を欧米から学び、創造力とリーダーシップを備えたプロフェッショナルを育成すると同時に、海外からの参加者にも日本やアジアの経営を深く理解できるような日本発の経営手法と欧米発の経営のBest of Two World（二律背反の実現）を融合することにより専門性の高いプロフェッショナルな人材を育成する。

この他、修了の要件、科目の履修方法等については、別冊を参照のこと。

2. ナンバリングについて（経営管理研究科）

（付番例）

B G- E 5 01-A-01

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦

項目	割り振り		桁数等
①	開講学部・研究科	B: 経営管理研究科	アルファベット (半角)1桁
②	学部／大学院	G: 大学院科目	アルファベット (半角)1桁
③	専攻・部門	E: 大学院(経営管理専攻／修士・博士後期課程／ 研究者養成コース)科目 ※学部・大学院共修科目含む F: 大学院(経営管理専攻／修士課程／経営学修士コース／ 経営分析プログラム)科目 ※学部・大学院共修科目含む G: 大学院(経営管理専攻／修士課程／経営学修士コース／ 経営管理プログラム)科目 H: 大学院(経営管理専攻／修士課程／経営学修士コース／ ホスピタリティ・マネジメント・プログラム)科目 I: 大学院(経営管理専攻／博士後期課程／ イノベーション・マネジメント・プログラム)科目 J: 大学院(経営管理専攻／経営学修士コース／ 研究者養成コース及び経営分析プログラム共修)科目 ※学部・大学院共修科目含む M: 大学院(経営管理専攻／経営学修士コース／ 金融戦略・経営財務プログラム)科目) P: 大学院(国際経営戦略専攻／MBA)科目) (500番台科目) Q: 大学院(国際経営戦略専攻／EMBA)科目) (500番台科目) R: 大学院(国際経営戦略専攻／DBA)科目) (600番台科目)	アルファベット (半角)1桁
④	科目区分	4:(学部・院)発展科目(大学院共修科目)(400番台) 5、7:(院)大学院科目(修士課程・専門職学位課程)(500、700番台) 6:(院)大学院科目(博士後期課程)(600番台) 8:演習・ワークショップ(MBA)	数字(半角)1桁
⑤	通し番号	01～99	数字(半角)2桁
⑥	開講形態	A:一般科目 S:演習・古典講読・ワークショップ L:特別講義・日本語集中講義	アルファベット (半角)1桁
⑦	枝番	01～99(特別講義等複数の副題にて開講される科目のみ)	数字(半角)2桁

2022年度 履修可否一覧表

科目分類		学生所属	修士課程				博士後期課程			5年一貫 学部4年次		交流学生・研究生	(他研究科院生 （非正規生含む）)	
科目区分	科目番号	研究者養成コース	経営学修士コース 経営分析プログラム	経営学修士コース 経営管理プログラム	金融戦略・経営財務プログラム	研究者養成コース	イノベーション・マネジメント・プログラム	金融戦略・経営財務プログラム	研究者養成コース	経営学修士コース 経営分析プログラム				
大学院	研究者養成コース科目	400~800番台	○	△(※1)	△(※1)	△	○	△(※1)	△	○	△(※1)	△	△	
	研究者養成コース イノベーション・マネジメント・プログラム科目	600-800番台	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	
	経営学 修士 コース	経営分析P科目	400-500番台	×	○	×	×	×	×	×	×	○	×	×
		経営管理Pコア科目、演習	500番台	×	×	○	×	×	△	×	×	×	×	×
		経営管理P選択科目	500番台	×	★(※1)	○	×	×	○	×	×	×	×	×
		FSプログラム基礎科目	500・600番台	×	×	×	○	×	×	○	×	×	×	△
		FSプログラム演習、副演習	500・800番台	×	×	×	○	×	×	○	×	×	×	×
		FSプログラム専門科目	500・600番台	■	■(※1)	■(※1)	○	■	×	○	×	×	×	×
	ICS専攻科目	500・600番台	■	■(※1)	■(※1)	●	■	×	●	×	×	×	×	
	法学研究科ビジネス・ロー専攻基本科目、発展科目	500・600番台	×	×	△(※1)	△	×	×	△	×	×	×	△	
他研究科科目	400~800番台	△	△(※1)	△(※1)	△	△	△(※1)	△	△	△(※1)	◆			
学部	全学共通科目(※6)	100~300番台	×	×	×	×	×	×	×			○		
	商学部	導入科目	100番台	×	×	×	×	×	×	×			△(※4)	
		基礎科目	200番台	×	×	×	×	×	×	×			○	
		発展科目	300番台	○	○(※1)	○(※1)	×	×	×	×			○	
	他学部	導入科目	100番台	×	×	×	×	×	×	×			◆	
		基礎科目	200番台	×	×	×	×	×	×	×			◆	
		発展科目(※2)	300番台	△	△(※1)	△(※1)	×	△	×	×			△	
	教職科目	900番台	○(※1)	○(※1)	○(※1)	×	○(※1)	×	×			○		
	HGP科目(含む国際交流科目)	100~300番台	△(※3)	△(※1・3)	△(※1・3)	×	△(※3)	×	×			○		
	ゼミナール	800番台	×	×	×	×	×	×	×			△		

- ：履修可
- △：一部を除き履修可（他学部・研究科科目を履修する場合は、学部履修規則や当該研究科の規則等を確認のこと）
- ：当該科目を設置する専攻長の承認が必要
- ：当該科目の担当教員及び、当該科目を設置する専攻長の承認が必要
- ×
- ◆：他学部・他研究科の規則を確認の上、担当教員に履修の可否を照会
- ★：3年以上の実務経験のある学生のみ、人材マネジメント、テクノロジー・マネジメント、ホスピタリティ・マネジメント、ホスピタリティ・マーケティング、特別講義（ホスピタリティ）（2022年度休講）、特別講義（ホスピタリティ・コンサルティング）、特別講義（デスティネーション・マーケティング）、経営実戦論、経営者講義A・B・Cを履修可。理由書を提出の上、MBAディレクター及び大学院教育専門委員の承認が必要。ここに記載のないものは履修不可。

- (※1) 履修できるが、修了要件に必要な単位数には含まれない
- (※2) 社会学部科目群外講義のうち
英文学講義Ⅰ・Ⅱ、英文学原典講義Ⅰ・Ⅱ、英語（二）～（八）、英文学史Ⅰ・Ⅱ及び英語圏文化Ⅰ・Ⅱを除く
- (※3) 導入科目（100番台科目）及び基礎科目（200番台科目）は履修不可
- (※4) 金融入門、会計学入門、経営学入門、マーケティング入門、ビジネス・エコノミクス入門のみ履修可
（ただし他学部向けは履修不可）
- (※5) 交流学生のみ、英語科目の履修可
- (※6) 一部例外あり。詳細は事務室に確認すること。

3. 経営管理研究科・商学研究科 演習（研究）指導教員一覧

- ※ 2022年度新入生の演習（研究指導）を担当しない
- ◆ 2022年度修士課程の演習は受入れるが、博士後期課程の研究指導の受入れは行わない
- × 2022年度の演習（研究指導）を担当しない
- △ 2021年度に論文指導を受けていた学生に限り演習（研究指導）を継続履修できる
- ▲ 副演習のみ担当する

経営管理研究科 経営管理専攻 修士課程・博士後期課程 研究者養成コース			
商学研究科経営・マーケティング専攻		商学研究科 会計・金融専攻	
<p>経営</p> <p>※ 沼上 幹 教授 田中 一弘 教授 加藤 俊彦 教授 西野 和美 教授 島本 実 教授 島貫 智行 教授 藤原 雅俊 教授 鎌田 裕美 准教授 坪山 雄樹 准教授 福地 宏之 准教授 佐々木 将人 准教授 中村 英仁 准教授 李 燃 准教授</p> <p>イノベーション</p> <p>◆ 江藤 学 教授 ▲ 市川 類 教授 青島 矢一 教授 軽部 大 教授 大山 睦 教授 中島 賢太郎 准教授 カン ビョンウ 准教授 ▲ 吉岡（小林）徹 講師 ▲ Padrón Hernández Ivar 講師</p> <p>マーケティング</p> <p>神岡 太郎 教授 山下 裕子 教授 鷺田 祐一 教授 七丈 直弘 教授 福川 恭子 教授 × 松井 剛 教授 岡本 純也 准教授 福田 玄明 准教授 上原 涉 准教授 田頭 拓己 准教授</p>		<p>会計</p> <p>佐々木 隆志 教授 × James Routledge 教授 挽 文子 教授 角ヶ谷 典幸 教授 中野 誠 教授 × 福川 裕徳 教授 荒井 耕 教授 加賀谷 哲之 教授 円谷 昭一 教授 青木 康晴 准教授 河内山 拓磨 准教授</p> <p>金融</p> <p>蜂谷 豊彦 教授 三隅 隆司 教授 篠沢 義勝 教授 田村 俊夫 教授 小西 大 教授 文 敏 鳴 教授 台坂 博 教授 中村 恒 教授 安田 行宏 教授 熊本 方雄 教授 斉木 吉隆 教授 小林 健太 教授 畑 宏明 教授 鈴木 雅貴 准教授 × 篠原 克寿 准教授</p>	

※2022 年度新入生の演習を担当しない

◆2022年度修士課程の新入生は受入れるが、博士課程の新入生の受入れは行わない

×2022年度の演習を担当しない

△2021年度に論文指導を受けていた学生に限り演習を継続履修できる

▲副演習のみ担当する

経営学修士コース (経営分析プログラム)	経営学修士コース (金融戦略・経営財務プログラム)	国際企業戦略専攻
<p>古典講読 A 坪山雄樹 准教授 B 熊本方雄 教授</p> <p>ワークショップ 【経営A】 軽部大 教授 【経営B】 佐々木将人 准教授 【マーケティング】 山下裕子 教授 【会計】 角ヶ谷典幸 教授 【金融】 篠沢義勝 教授</p> <p>留学生演習Ⅰ (留学生プログラム) 治良博史 非常勤講師 留学生演習Ⅱ (留学生プログラム) 中村英仁 准教授</p>	<p>修士課程・博士後期課程 △ 中村信弘 教授 大橋和彦 教授 伊藤彰敏 教授 本多俊毅 教授 中川秀敏 教授 野間幹晴 教授 鈴木健嗣 教授 横内大介 准教授 宮川大介 准教授</p>	<p>MBAプログラム 阿久津 聡 教授 大 藺 恵 美 教授 岡 田 英理香 教授 小 野 浩 教授 楠 木 建 教授 服 部 正 純 教授 ロビンソン パトリシア 教授 大 上 慎 吾 准教授 孫 康 勇 准教授 鈴 木 智 子 准教授 藤 川 佳 則 准教授 リー ジンジュ 講師</p>
<p>経営学修士コース (経営管理プログラム) (ホスピタリティ・マネジメント・プログラム)</p>		<p>DBAプログラム 阿久津 聡 教授 岡 田 英理香 教授 小 野 浩 教授 ロビンソン パトリシア 教授 孫 康 勇 准教授</p>
<p>導入ワークショップ 基礎ワークショップ A 軽部大 教授 B 島本実 教授 C 上原涉 准教授 D 円谷昭一 教授 E 安田行宏 教授 F 福地宏之 准教授</p> <p>ワークショップ A 加藤俊彦 教授 B 西野和美 教授 C 青木康晴 准教授 D 三隅隆司 教授 E 鎌田裕美 准教授</p>		

4. 経営管理研究科講義表

＜経営管理専攻 修士課程・博士後期課程 研究者養成コース＞

※2022(令和4)年2月時点での情報を掲載している。最新の情報は、CELSのシラバスで確認すること。

修士課程		単 位 数	学 期	曜 日	時 限	担 当 教 員 名	備 考
ナンバリング	授業科目名						
共通基礎							
BG-E501-A	研究方法特論	2	春夏	火	2	李 燃	英語
BG-E502-A	データ分析特論	2	春夏	火	4	斉木 吉隆	『企業データ分析』と同時開講
BG-E503-A	文献精読特論(経営・マーケティング)	2	秋冬	水	2	福川 恭子	
BG-E503-A	文献精読特論(会計・金融)	2	秋冬	火	3	河内山 拓磨	
BG-E401-A	ビジネス・エコノミクス特論	2	春夏	木	3	中村 恒	学部共修
BG-E544-A	アカデミック・リーディング特論	2	休講				英語
経営領域							
BG-E405-A	経営組織特論	2	秋冬	火	1	加藤 俊彦	学部共修
BG-E406-A	経営戦略特論	2	春夏	月	5	藤原 雅俊	学部共修
BG-E407-A	財務管理特論	2	春夏	火	2	中野 誠	学部共修
BG-E408-A	企業システム特論	2	秋冬	水	2	田中 一弘	学部共修
BG-E509-A	労務管理特論	2	休講				
BG-E510-A	経営史特論	2	春夏	水	1	島本 実	
イノベーション領域							
BG-E411-A	イノベーション経営特論	2	秋冬	火	1	軽部 大	学部共修
BG-E412-A	イノベーション経済特論	2	春夏	火	1	中島 賢太郎	学部共修
BG-E513-A	技術戦略特論	2	秋冬	火	3	青島 矢一 吉岡(小林)徹	
BG-E514-A	知的財産特論	2	春夏	火	2	江藤 学 市川 類	
BG-E515-A	アントレプレナーシップ特論	2	春夏	金	2	カン ビョンウ	
BG-E452-L	特別講義(イノベーションの国際比較A)	2	春夏	金	3	Padrón Hernández Ivar	学部共修・英語
BG-E453-L	特別講義(イノベーションの国際比較B)	2	春夏	木	2	小泉 秀人	学部共修・英語
BG-E516-A	先端科学技術とイノベーション	2	秋冬	水		青島 矢一 大山 睦 吉岡(小林) 徹	18時から・千代田キャンパス
BG-E517-A	イノベーションと政策・制度	2	秋冬	火	2	江藤 学 市川 類	
BG-E518-A	イノベーションと経営・経済・政策	2	春夏	水		青島 矢一 江藤 学 中島 賢太郎 大山 睦	隔週・18時から
BG-E519-A	イノベーション研究方法論	2	春夏	水		青島 矢一 江藤 学 吉岡(小林) 徹	隔週・18時から
BG-E520-A	イノベーションリサーチセミナー I	2	春夏	土		青島 矢一 江藤 学	月に1回 IMPPプログラム受講生のみ履修可
BG-E521-A	イノベーションリサーチセミナー II	2	秋冬	土		青島 矢一 江藤 学	月に1回 IMPPプログラム受講生のみ履修可
マーケティング領域							
BG-J422-A	マーケティング・リサーチ特論	2	秋冬	火	3	田頭 拓己	学部・MBA共修
BG-E423-A	マーケティング特論	2	春夏	金	3	神岡 太郎	学部共修
BG-E524-A	消費者行動特論	2	休講				
BG-E525-A	マーケティング戦略特論	2	秋冬	月	4	山下 裕子	
BG-E554-L	特別講義(International Market Research Method)	1	集中	冬期	①	Renee B. Kim	英語
BG-E424-L	特別講義(デザイン・リサーチ)	1	集中	冬期		丘 増平	学部共修・英語
BG-E425-L	特別講義(情報技術経営のフロンティア)	1	集中	冬期		Michael Bjorn	学部共修・英語

修士課程		単位数	学期	曜日	時限	担当教員名	備考
ナンバリング	授業科目名						
産業文化領域							
BG-E527-A	スポーツ・マネジメント特論	2	春夏	水	2	岡本 純也	
BG-E528-A	商業文化特論	2	春夏	水	1	町田 みどり	
会計領域							
BG-E429-A	管理会計システム特論	2	春夏	木	3	挽 文子	学部共修
BG-E430-A	監査特論	2	春夏	木	1	佐々木 隆志	学部共修
BG-E431-A	財務会計特論	2	秋冬	月	1	加賀谷 哲之	学部共修
BG-E532-A	実証的会計分析特論	2	休講				隔年開講
BG-E533-A	会計学史特論	2	秋冬	木	3	角ヶ谷 典幸	隔年開講
BG-E534-A	管理会計特論	2	休講				隔年開講
BG-E535-A	原価計算特論	2	春夏	月	4	荒井 耕	隔年開講
金融領域							
BG-E436-A	企業金融特論	2	秋冬	月	1	小西 大	学部共修
BG-E437-A	資産価格特論	2	春夏	金	4	鈴木 雅貴	学部共修
BG-E538-A	国際金融特論	2	秋冬	火	1	熊本 方雄	隔年開講
BG-E539-A	金融システム特論	2	秋冬	木	2	中村 恒	隔年開講
BG-E540-A	金融数理特論	2	休講				隔年開講
BG-E549-A	Finance Special Field A	1	休講				英語
BG-E550-A	Finance Special Field B	1	休講				英語
経営基礎科学領域							
BG-E541-A	コンピューター・シミュレーション特論	2	春夏	木	1	台坂 博	
演習							
BG-A801-S	演習	6				別紙	必修
BG-A802-S	副演習	2または4				別紙	他研究科で2単位の場合有り
学部GLP共修科目							
BG-J471-A	Managing the SDGs-SIGMA Global Active Learning	2	GEP(秋)			中谷 純江	学部・MBA共修・英語

博士後期課程		単位数	学期	曜日	時限	担当教員名	備考
ナンバリング	授業科目名						
共通基礎							
BG-E645-A	研究倫理と論文作法	2	春夏	木	3	角ヶ谷 典幸 坪山 雄樹	博士後期課程必修
選択							
BG-E634-A	管理会計特論(Ph.D)	2	休講				隔年開講
BG-E646-A	研究領域特論(会計)	2	春夏	火	2	James Routledge	英語
演習							
BG-A803-S	演習(Ph.D)	6				別紙	必修・2020年以前入学者が履修
BG-A804-S	副演習(Ph.D)	2または4				別紙	他研究科で2単位の場合有り
BG-A816-S	研究領域演習	6				別紙	必修・2021年以降入学者が履修
BG-A816-S	研究領域副演習	4				別紙	必修・2021年以降入学者が履修

4. 経営管理研究科講義表

＜経営管理専攻 修士課程 経営学修士コース経営分析プログラム＞

※本研究科のすべての授業科目には「配当年次」がそれぞれ指定されている。修士課程1年次の学生は「1」又は「1・2」と表記された科目、修士課程2年次の学生は「2」又は「1・2」と表記された科目を履修できる。

※2022(令和4)年2月時点での情報を掲載している。最新の情報は、CELSのシラバスで確認すること。

ナンバリング	授業科目	単位数	配当年次	学期	曜日	時限	担当教員名	備考
コア科目								
BG-F501-A	経営戦略	2	1	春夏	火	1	加藤 俊彦	必修
BG-F502-A	マーケティング	2	1	秋冬	金	5	鷺田 祐一	必修
BG-F503-A	財務会計	2	1	春夏	月	1	円谷 昭一	必修
BG-F504-A	企業財務	2	1	秋冬	木	1	篠沢 義勝	必修
BG-F505-A	経営組織	2	1・2	秋冬	火	1	青島 矢一	
BG-F506-A	管理会計	2	1・2	秋冬	木	2	挽 文子	
BG-F507-A	企業データ分析	2	1	春夏	火	4	斉木 吉隆	『データ分析特論』と同時開講
BG-F508-A	経営哲学	2	1・2	秋冬	水	1	田中 一弘	
BG-F509-A	理論構築の方法	2	2	休講				
選択科目								
BG-F521-A	戦略分析	2	1・2	秋冬	月	2	藤原 雅俊	
BG-F510-A	ビジネス・エコノミクス	2	1・2	秋冬	金	3	大山 睦	
BG-J422-A	マーケティング・リサーチ特論	2	1・2	秋冬	火	3	田頭 拓己	学部・研究者養成コース共修
BG-F522-A	証券分析とポートフォリオマネジメント	2	1・2	秋冬	金	2	三隅 隆司	
BG-F523-A	国際金融	2	1・2	休講				
BG-F524-A	金融リスクマネジメント	2	2	秋冬	木	3	中村 恒	
BG-F525-A	M&Aの理論と実務【みずほ証券寄附講義】	2	2	春夏	月	2	田村 俊夫	
BG-F451-L	特別講義(企業経営分析)	2	1・2	秋冬	木	4	吉岡 泰士 朱 殷卿	学部共修
BU-F454-L	特別講義(組織の創造性)	1	1・2	休講				学部共修
BG-F526-A	金融リスクマネジメントの理論と実務【みずほ証券寄附講義】	2	1・2	春夏	木	3	門利 剛	
BG-F455-A	ポートフォリオマネジメントの理論と実務 【アセットマネジメントOne・みずほ証券寄附講義】	2	1・2	秋冬	火	2	劔 義隆 丹治 倫敦	学部共修
BG-F528-A	Global Management	2	1・2	休講				隔年開講・英語
BG-F529-A	Global Marketing	2	1・2	秋冬	木	2	福川 恭子	隔年開講・英語
BG-F530-A	International Accounting	2	1・2	休講				隔年開講・英語
BG-F531-A	Money and Finance	2	1・2	春夏	火	3	文 敏鳴	隔年開講・英語
BG-F532-A	Advanced Course in Management (MBA)	2	1・2	春	月・木	3	Padrón Hernández Ivar	学部共修(同時開講)・英語
BG-F533-A	Advanced Course in Marketing (MBA)	2	1・2	秋	月・木	3	田頭 拓己	学部共修(同時開講)・英語
BG-F534-A	Advanced Course in Accounting (MBA)	2	1・2	秋	月・木	2	James Routledge	学部共修(同時開講)・英語
BG-F535-A	Advanced Course in Finance (MBA)	2	1・2	冬	月・木	3	文 敏鳴	学部共修(同時開講)・英語
BG-F511-A	Special topics on Management and Marketing A (MBA)	2	1・2	冬	月・木	2	李 燃	学部共修(同時開講)・英語
BG-F512-A	Special topics on Management and Marketing B (MBA)	2	1・2	休講				学部共修(同時開講)・英語
BG-F513-A	Special topics on Management and Marketing C (MBA)	2	1・2	夏	月・木	2	福川 恭子	学部共修(同時開講)・英語
BG-F514-A	Special topics on Management and Marketing D (MBA)	2	1・2	春	火・金	3	田頭 拓己	学部共修(同時開講)・英語
BG-F515-A	Special topics on Management and Marketing E (MBA)	2	1・2	春	月・木	2	李 燃	学部共修(同時開講)・英語
BG-F516-A	Special topics on Accounting and Finance A (MBA)	2	1・2	春	月・木	4	文 敏鳴	学部共修(同時開講)・英語
BG-F517-A	Special topics on Accounting and Finance B (MBA)	2	1・2	夏	月・木	4	文 敏鳴	学部共修(同時開講)・英語
BG-F518-A	Special topics on Accounting and Finance C (MBA)	2	1・2	休講				学部共修(同時開講)・英語

ナンバリング	授業科目	単位数	配当年次	学期	曜日	時限	担当教員名	備考
BG-F519-A	Special topics on Accounting and Finance D (MBA)	2	1・2	休講				学部共修(同時開講)・英語
BG-F520-A	Special topics on Accounting and Finance E (MBA)	2	1・2	休講				学部共修(同時開講)・英語
BG-F471-G	Managing the SDGs-SIGMA Global Active Learning	2	1・2	GEP(秋)			中谷 純江	学部・研究者養成コース共修・英語
BG-F540-A	Professional Presentations	2	2	春夏	火	2	未定	英語
BG-F541-A	Professional Communication: Meeting and Email	2	2	秋冬	火	2	Gavin O' Neill	英語
英語コミュニケーション科目								
BG-F551-L	English Communication A	2	1	通年	水	2	未定	英語・一般必修※ 1・2回目のみクラス指定
BG-F551-L	English Communication B	2	1	通年	水	2	Ross Rangott	
日本語学習科目(受講対象:経営学修士コース 経営分析プログラム 留学生プログラムに所属する修士1年)								
BG-F561-L	日本語集中講義A(留学生プログラム)	1	1	春夏	月	1	志賀 玲子	留学生プログラム必修
BG-F562-L	日本語集中講義B(留学生プログラム)	1	1	春夏	月	2	志賀 玲子	
BG-F563-L	日本語集中講義C(留学生プログラム)	1	1	春夏	水	1	山田 京子	
BG-F564-L	日本語集中講義D(留学生プログラム)	1	1	春夏	水	2	山田 京子	
BG-F565-L	日本語集中講義E(留学生プログラム)	1	1	春夏	木	1	西谷 まり	
BG-F566-L	日本語集中講義F(留学生プログラム)	1	1	春夏	木	2	本多 由美子	
BG-F567-L	日本語集中講義G(留学生プログラム)	1	1	春夏	金	1	鈴木 靖代	
BG-F568-L	日本語集中講義H(留学生プログラム)	1	1	春夏	金	2	鈴木 靖代	
演習								
BG-F801-S	古典講読A	2	1	春夏	金	2	坪山 雄樹	一般必修※ クラス指定
BG-F801-S	古典講読B	2	1	春夏	金	2	熊本 方雄	
BG-A806-S	留学生演習 I	2	1	春夏	水	4	治良 博史	留学生プログラム必修
BG-A807-S	留学生演習 II	2	1	秋冬	金	4	中村 英仁	
BG-F811-S	ワークショップ:経営A	6	2	通年	月	3	軽部 大	
BG-F811-S	ワークショップ:経営B	6	2	通年	月	3	佐々木 将人	
BG-F811-S	ワークショップ:マーケティング	6	2	通年	木	5	山下 裕子	
BG-F811-S	ワークショップ:会計	6	2	通年	月	4	角ヶ谷 典幸	
BG-F811-S	ワークショップ:金融	6	2	通年	月	5	篠沢 義勝	

4. 経営管理研究科講義表

<経営管理専攻 修士課程 経営学修士コース経営管理プログラム

ホスピタリティ・マネジメント・プログラム>

※本研究科のすべての授業科目には「配当年次」がそれぞれ指定されている。修士課程1年次の学生は「1」又は「1・2」と表記された科目、修士課程2年次の学生は「2」又は「1・2」と表記された科目を履修できる。

※2022(令和4)年2月時点での情報を掲載している。最新の情報は、CELSのシラバスで確認すること。

ナンバリング	授業科目	単位数	配当年次	学期	曜日	時限	担当教員名	備考
コア科目								
BG-G501-A	経営戦略	2	1	春夏	水	夜2	沼上 幹	必修
BG-G502-A	マーケティング	2	1	秋冬	水	夜2	鷺田 祐一	必修
BG-G503-A	財務会計	2	1	春夏	火	夜2	加賀谷 哲之	必修
BG-G504-A	企業財務	2	1	秋冬	火	夜2	中野 誠	必修
BG-G505-A	経営組織	2	1・2	秋冬	木	夜2	青島 矢一	
BG-G506-A	マネジメント・コントロール	2	1・2	秋冬	金	夜2	青木 康晴	
BG-G507-A	企業データ分析	2	1	春夏	火	夜1	畑 宏明	
BG-G508-A	経営哲学	2	2	春夏	木	夜2	田中 一弘	
BG-G509-A	理論構築の方法	2	2	休講				
選択科目								
BG-G521-A	人材マネジメント	2	1・2	秋冬	木	夜1	島貫 智行	
BG-G522-A	テクノロジー・マネジメント	2	1・2	秋冬	金	夜1	西野 和美	
BG-G523-A	M&Aの理論と実務【みずほ証券寄附講義】	2	2	春夏	水	夜1	田村 俊夫	
BG-G524-A	シナリオ・プランニング	2	2	春夏	金	夜1	鷺田 祐一	
BG-H525-A	ホスピタリティ・マネジメント	2	1・2	春夏	木	夜1	福地 宏之	ホスピ必修
BG-H526-A	ホスピタリティ・マーケティング	2	1・2	秋冬	水	夜1	鎌田 裕美	ホスピ必修
BG-G527-A	Global Management	2	1・2	秋冬	火	夜1	李 燃	隔年開講・英語
BG-G528-A	Global Marketing	2	1・2	休講				隔年開講・英語
BG-G529-A	International Accounting	2	1・2	春夏	金	夜2	James Routledge	隔年開講・英語
BG-G530-A	Money and Finance	2	1・2	休講				隔年開講・英語
BG-G531-A	経営者講義A	1	1・2	集中	夏期		志賀 俊之	詳細な日程はシラバスを参照
BG-G532-A	経営者講義B	1	1・2	冬	土		新宅 祐太郎	詳細な日程はシラバスを参照
BG-G533-A	経営者講義C	1	1・2	集中	冬期	③	榎戸 康二	詳細な日程はシラバスを参照
BG-G510-A	ビジネス・デベロップメント 【三枝匡経営者育成基金寄附講義】	2	2	春夏			秦 充洋	詳細な日程はシラバスを参照
BG-G511-A	経営実戦論 【三枝匡経営者育成基金寄附講義】	1	1・2	夏			土合 朋宏	詳細な日程はシラバスを参照
BG-H551-L	特別講義(ホスピタリティ)	1	1・2	休講				
BG-H552-L	特別講義(ホスピタリティ・コンサルティング)	1	1・2	集中	夏期		高林 浩司	詳細な日程はシラバスを参照
BG-H555-L	特別講義(デスティネーション・マーケティング)	1	1・2	秋冬	土		村木 智裕	詳細な日程はシラバスを参照
BG-G554-L	特別講義(イノベーション・マネジメント)	1	1・2	集中	冬期		二村 英介	詳細な日程はシラバスを参照

ナンバリング	授業科目	単位数	配当年次	学期	曜日	時限	担当教員名	備考
演習								
BG-G801-S	導入ワークショップA	2	1	春夏	月	夜1・2	軽部 大	必修・隔週開講
BG-G801-S	導入ワークショップB	2	1	春夏	月	夜1・2	島本 実	
BG-G801-S	導入ワークショップC	2	1	春夏	月	夜1・2	上原 渉	
BG-G801-S	導入ワークショップD	2	1	春夏	月	夜1・2	円谷 昭一	
BG-G801-S	導入ワークショップE	2	1	春夏	月	夜1・2	安田 行宏	
BG-G801-S	導入ワークショップF	2	1	春夏	月	夜1・2	福地 宏之	
BG-G802-S	基礎ワークショップA	2	1	秋冬	月	夜1・2	軽部 大	
BG-G802-S	基礎ワークショップB	2	1	秋冬	月	夜1・2	島本 実	
BG-G802-S	基礎ワークショップC	2	1	秋冬	月	夜1・2	上原 渉	
BG-G802-S	基礎ワークショップD	2	1	秋冬	月	夜1・2	円谷 昭一	
BG-G802-S	基礎ワークショップE	2	1	秋冬	月	夜1・2	安田 行宏	
BG-G802-S	基礎ワークショップF	2	1	秋冬	月	夜1・2	福地 宏之	
BG-G811-S	ワークショップA	6	2	通年	月	夜1・2	加藤 俊彦	
BG-G811-S	ワークショップB	6	2	通年	月	夜1・2	西野 和美	
BG-G811-S	ワークショップC	6	2	通年	月	夜1・2	青木 康晴	
BG-G811-S	ワークショップD	6	2	通年	月	夜1・2	三隅 隆司	
BG-G811-S	ワークショップE	6	2	通年	月	夜1・2	鎌田 裕美	

＜経営管理専攻 博士後期課程 研究者養成コース

イノベーション・マネジメント・プログラム＞

ナンバリング	授業科目	単位数	配当年次	学期	曜日	時限	担当教員名	備考
BG-I601-A	イノベーション・マネジメント・リサーチ・セミナーA	1	1	夏			西野 和美 島本 実 島貫 智行	必修 詳細な日程はシラバスを参照
BG-I602-A	イノベーション・マネジメント・リサーチ・セミナーB	1	1	冬			西野 和美 島本 実 島貫 智行	必修 詳細な日程はシラバスを参照
演習								
BG-A805-S	演習	6	1・2・3	通年	月	夜1・2	西野 和美 島本 実 島貫 智行	隔週開講・必修
BG-A805-S	演習	6	1・2・3	通年	月	夜1・2	島本 実 西野 和美 島貫 智行	隔週開講・必修

4. 経営管理研究科講義表(4)

<経営管理専攻 修士課程 経営学修士コース 金融戦略・経営財務プログラム>

※開講曜日・時限等が変更になることがある。経営管理研究科事務室からの掲示、メールなどの案内に従い、確実に履修登録をすること。

金融戦略・経営財務プログラム

ナンバリング	授業科目名	単位数	学期	曜日	時限	担当教員名	備考
基礎科目							
BG-M501-A00	ファイナンス理論の基礎	2	春夏	火	7	本多 俊毅	
BG-M502-A00	ファイナンス理論	2	秋冬	水	7	大橋 和彦	
BG-M503-A00	金融データ分析の基礎	2	春夏	水	7	横内 大介	
BG-M504-A00	コーポレートファイナンスの基礎	2	春夏	金	7	鈴木 健嗣	
BG-M505-A00	会計・バリュエーションの基礎	2	春夏	木	7	野間 幹晴 奈良 沙織	
BG-M506-A00	コンピュータショナル・ファイナンス	2	春夏	火	6	上村 昌司	
BG-M507-A00	金融数理の基礎	2	秋冬	火	6	中川 秀敏	
専門科目							
BG-M510-A00	金融数理入門	1	春	木	6	力丸 佑紀	
BG-M511-A00	線形モデル入門	1	春	他	他	青木 義充	曜日時間は別途配布される時間割にて確認のこと
BG-M512-A00	金融リスク計量入門	1	春	金	7	中川 秀敏 北野 利幸	
BG-M513-A00	時系列分析入門	1	秋	木	7	青木 義充	
BG-M514-A00	金融データリテラシーI	1	夏	集中	他	鍋井 弘士	曜日時間は別途配布される時間割にて確認のこと
BG-M515-A00	金融データリテラシーII	1	冬	集中	他	鍋井 弘士	曜日時間は別途配布される時間割にて確認のこと
BG-M516-A00	統計プログラミング入門	1	秋	月	7	菅谷 勇樹	
BG-M520-A00	ポートフォリオ投資論	2	秋冬	火	7	本多 俊毅	
BG-M521-A00	資産価格の実証分析	2	秋冬	木	6	祝迫 得夫	
BG-M530-A00	派生証券理論	2	秋冬	金	6	箆島 靖文	
BG-M532-A00	投資戦略論	2	秋冬	金	7	東出 卓朗 中村 信弘	
BG-M533-A00	ファイナンシャル・リスク・マネジメント	2	春夏	火	7	中川 秀敏	
BG-M534-A00	金融数理	2	春夏	金	6	箆島 靖文	
BG-M537-A00	金融データ分析	2	秋冬	木	6	宮川 大介	
BG-M538-A00	ベイズ統計学(MCMC法)	1	冬	水	6	青木 義充	
BG-M540-A00	データサイエンス概論	2	春夏	金	6	横内 大介	
BG-M543-A00	金融データ分析:演習	2	夏	集中	他	宮川 大介 山ノ内 健太	曜日時間は別途配布される時間割にて確認のこと
BG-M544-A00	エネルギー・ファイナンス	1	春	他	他	大橋 和彦	曜日時間は別途配布される時間割にて確認のこと
BG-M545-A00	金融リスク計量における諸問題	1	夏	金	7	北野 利幸	
BG-M546-A00	統計科学の数理(推定手法・モデル選択)	1	春	木	7	力丸 佑紀	
BG-M547-A00	統計プログラミング	1	冬	月	7	菅谷 勇樹	
BG-M556-A00	国際財務管理	1	春	水	6	伊藤 彰敏	
BG-M557-A00	コーポレート・ファイナンスに関する諸問題	1	夏	水	6	鈴木 健嗣	
BG-M558-A00	CFOと企業価値	1	冬	他	他	石橋 善一郎	曜日時間は別途配布される時間割にて確認のこと
BG-M560-A00	グローバルM&A	1	冬	金	6	安久 芳伸 岩井 真希子	
BG-M570-A00	金融経済学(情報とインセンティブ)	1	夏	火	6	大橋 和彦	
BG-M573-A00	グローバル・リーダーシップ	2	冬	集中	他	福原 正大	曜日時間は別途配布される時間割にて確認のこと
BG-M574-A00	マネジリアル・エコノミクス	1	夏	集中	他	宮川 大介	曜日時間は別途配布される時間割にて確認のこと
BG-M575-A00	マネタリー・エコノミクス	1	冬	集中	他	宮川 大介	曜日時間は別途配布される時間割にて確認のこと
BG-M576-A00	企業戦略論	1	冬	集中	他	松田 千恵子	曜日時間は別途配布される時間割にて確認のこと
BG-M577-A00	サービス経営のファイナンス	1	夏	集中	他	馬場 義徳	曜日時間は別途配布される時間割にて確認のこと
BG-M580-A00	金融機関の戦略的経営	1	春	金	6	土岐 大介	
BG-M582-A00	プライベート・エクイティと資本市場	2	春夏	火	6	幸田 博人	
BG-M583-A00	プライベート・エクイティと課題	1	冬	火	6	幸田 博人	
BG-M584-A00	グローバル金融規制と新たなリスクへの対応	2	春夏	金	6	佐々木 清隆	

ナンバリング	授業科目名	単位数	学期	曜日	時限	担当教員名	備考
BG-M585-A00	社会システム工学	1	春	金	7	松田 雄馬	
BG-M586-A00	人工知能概論	1	秋	金	6	松田 雄馬	
BG-M587-A00	企業倫理とESG	2	秋冬	木	6	梅津 光弘	
BG-M601-A00	資産価格理論	1	春	火	6	大橋 和彦	博士課程向け科目
BG-M603-A00	コーポレート・ファイナンスの実証分析I	1	夏	水	7	鈴木 健嗣	博士課程向け科目
BG-M604-A00	コーポレート・ファイナンスの実証分析II	1	冬	木	7	伊藤 彰敏	博士課程向け科目
BG-M701-A00	M&Aと事業再生の実践 I (KPMG FAS 寄附講義)	1	夏	水	6	伊藤 彰敏 知野 雅彦	
BG-M702-A00	M&Aと事業再生の実践 II (KPMG FAS 寄附講義)	1	秋	水	6	鈴木 健嗣 知野 雅彦	
BG-M703-A00	FinTechと金融市場 (寄附講義)	2	春夏	木	6	野間 幹晴 藤田 勉	
BG-M706-A00	FinTechとイノベーション II	1	冬	水	6	野間 幹晴 藤田 勉	
BG-M572-A00	副演習	1	春	月	6	佐山 展生	M2のみ履修可
BG-M572-A00	副演習	1	夏	月	7	佐山 展生	M1のみ履修可
演習							
BG-M801-S	演習(修士1年生)	2	春夏	月	6	別頁	
BG-M802-S	演習(修士・専門職2年生)	2	春夏	月	7	別頁	
BG-M803-S	演習(博士1年生)	2	春夏	他	他	別頁	曜日時間は指導教員に確認のこと
BG-M803-S	演習(博士2年生)	2	春夏	他	他	別頁	曜日時間は指導教員に確認のこと
BG-M803-S	演習(博士3年生)	2	春夏	他	他	別頁	曜日時間は指導教員に確認のこと
BG-M801-S	演習(修士1年生)	2	秋冬	月	6	別頁	
BG-M802-S	演習(修士・専門職2年生)	2	秋冬	月	7	別頁	
BG-M803-S	演習(博士1年生)	2	秋冬	他	他	別頁	曜日時間は指導教員に確認のこと
BG-M803-S	演習(博士2年生)	2	秋冬	他	他	別頁	曜日時間は指導教員に確認のこと
BG-M803-S	演習(博士3年生)	2	秋冬	他	他	別頁	曜日時間は指導教員に確認のこと

6. 一橋大学大学院経営管理研究科規則

(目的)

第1条 この規則は、一橋大学学則（平成16年規則第2号。以下「学則」という。）中、各研究科において定めるように規定されている事項、一橋大学学位規則（平成16年規則第72号。以下「学位規則」という。）及び一橋大学大学院経営管理研究科（以下「本研究科」という。）において必要と認める事項について定めることを目的とする。

(課程、専攻、コース)

第2条 本研究科に、博士課程及び専門職学位課程を置き、博士課程を修士の学位を与える課程（以下「修士課程」という。）及び修士及び専門職の学位を得た者に対して博士の学位を与える課程（以下「博士後期課程」という。）に区分する。

2 修士課程に経営管理専攻を置き、研究者養成コース及び経営学修士コースを設ける。また、経営学修士コースに、経営分析プログラム、経営管理プログラム、金融戦略・経営財務プログラムを設けるとともに、研究者養成コース及び経営分析プログラムにそれぞれ留学生プログラムを設ける。

一 研究者養成コースでは、経営、マーケティング、会計、金融並びにそれらに関連する分野に係る幅広い学識の涵養を図るとともに、研究及び応用能力を有する人材養成を行うことを目的とする。

二 経営学修士コースは、高度の専門性を要する職業等に必要な高度の能力を有する人材養成を行うことを目的とする。

3 専門職学位課程に国際企業戦略専攻を置き、MBAプログラム及びEMBAプログラムを設ける。また、MBAプログラムにMBA2年プログラム（以下「2年プログラム」という。）、MBA1年プログラム（以下「1年プログラム」という。）、及びヤング・リーダーズ・プログラム・ビジネスコース（以下「YLPビジネスコース」という。）を設ける。

国際企業戦略専攻は、日本発の「知」と欧米から学べる「知」を融合し、グローバルに通用する経営戦略に携わるプロフェッショナルの育成などの高度の専門性を要する職業等に必要な高度の能力を専ら養うことを目的とする。

4 博士後期課程に、経営管理専攻と国際企業戦略専攻を置く。経営管理専攻に研究者養成コース及び金融戦略・経営財務プログラムを設け、研究者養成コースにイノベーション・マネジメント・プログラムを設ける。また、国際企業戦略専攻にDBAプログラムを設ける。

一 経営管理専攻は、経営、マーケティング、会計、金融並びにそれらに関連する分野に係る深い専門知識に支えられた創造性豊かな優れた研究及び応用能力を有する人材養成を行うとともに、専攻分野について、高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。

二 国際企業戦略専攻は、専攻分野について、高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。

(教育方法の特例)

第3条 本研究科は、夜間その他特定の時間若しくは時期において授業又は研究指導を行う等の方法により教育を行うことができる。

(専門職学位課程の標準修業年限)

第4条 専門職学位課程国際企業戦略専攻のうち、1年プログラム、YLPビジネスコース及びEMBAプログラムの標準修業年限は、学則第37条ただし書に基づき、履修上の区分により1年とする。

(修士課程の修了要件)

第5条 修士課程経営管理専攻研究者養成コース（留学生プログラムを除く。）の修了要件は、2年以上在学し、32単位以上（演習12単位以上を含む。）を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、学位論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、学則第66条第1項ただし書及び同条第2項に基づき、経営管理研究科教授会（以下「研究科教授会」という。）の議を経て、在学期間の特例を認めることができる。

2 修士課程経営管理専攻研究者養成コース留学生プログラムの修了要件は、2年以上在学し、34単位以上（演習12単位以上を含む。）を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、学位論文の審査

及び最終試験に合格することとする。

- 3 修士課程経営管理専攻経営学修士コース経営分析プログラム（留学生プログラムを除く。）の修了要件は、2年以上在学し、34単位以上（演習8単位以上を含む。）を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、学位論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、学則第66条第1項ただし書及び同条第2項に基づき研究科教授会の議を経て、在学期間の特例を認めることができる。
- 4 修士課程経営管理専攻経営学修士コース経営分析プログラム留学生プログラムの修了要件は、2年以上在学し、38単位以上（演習10単位以上を含む。）を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、学位論文の審査及び最終試験に合格することとする。
- 5 修士課程経営管理専攻経営学修士コース経営管理プログラムの修了要件は、2年以上在学し、34単位以上（演習10単位以上を含む。）を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、学位論文の審査及び最終試験に合格することとする。
- 6 修士課程経営管理専攻経営学修士コース金融戦略・経営財務プログラムの修了要件は、2年以上在学し、34単位以上（演習8単位以上を含む。）を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、学位論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、学則第66条第1項ただし書及び同条第2項に基づき、研究科教授会の議を経て、在学期間の特例を認めることができる。

（専門職学位課程の修了要件）

第6条 専門職学位課程国際企業戦略専攻2年プログラムの修了要件は、2年以上在学し、56単位以上（演習4単位以上を含む。）を修得し、かつ、そのうち32単位以上はA+、A、B又はPの成績でなければならない。

- 2 専門職学位課程国際企業戦略専攻1年プログラム、YLPビジネスコース及びEMBAプログラムの修了要件は、1年以上在学し、かつ、一橋大学大学院経営管理研究科細則（平成30年規則第53号。以下「研究科細則」という。）に定める要件を満たすこととする。

（博士後期課程の修了要件）

第7条 博士後期課程経営管理専攻研究者養成コースの修了要件は、3年以上在学し、20単位以上（演習18単位以上を含む。）を修得し、必要な研究指導を受けた上、学位論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、学則第67条第1項ただし書に基づき研究科教授会の議を経て、在学期間の特例を認めることができる。

- 2 博士後期課程経営管理専攻金融戦略・経営財務プログラムの修了要件は、3年以上在学し、演習12単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、本研究科が行う学位論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、学則第67条第1項ただし書に基づき研究科教授会の議を経て、在学期間の特例を認めることができる。
- 3 博士後期課程国際企業戦略専攻の修了要件は、3年以上在学し、DBAプログラムの必修科目のすべて、選択科目2単位以上、特別科目のすべて及び演習12単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、本研究科が行う学位論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、学則第67条第1項ただし書に基づき研究科教授会の議を経て、在学期間の特例を認めることができる。

（科目及び単位数）

第8条 本研究科に開設する科目及び単位数は、別表のとおりとする。

（履修方法）

第9条 科目の履修については、研究科細則に定めるところに従って単位を修得することとする。

（演習）

第10条 第5条、第6条第1項及び第7条に規定する演習については、毎年度1科目を履修しなければならない。ただし、修士課程経営管理専攻経営学修士コース経営分析プログラム留学生プログラム及び同コース経営管理プログラムの1年次並びに修士課程経営管理専攻経営学修士コース金融戦略・経営財務プログラム及び博士後期課程経営管理専攻金融戦略・経営財務プログラムについては、2科目を履修しなければならない。

（履修科目の登録及び撤回）

第11条 学生は、履修しようとする科目を所定の期間内に登録しなければならない。ただし、登録した履修科目を所定の期間内に撤回できるものとする。

- 2 留学又は休学等のため所定の期間内に登録ができない場合は、その事由が止んだ後遅滞なく、登録をしなければならない。

(履修科目の評価)

第12条 履修科目の評価は、科目担当教員が、試験、論文又は平常の成績により行う。

(試験)

第13条 学科試験は、期日を定めて行う。

- 2 前項のほか、経営管理研究科長（以下「研究科長」という。）が特に必要と認めた場合は、追試験を行うことができる。

(学位論文審査及び最終試験)

第14条 学位論文審査及び最終試験については、学則、学位規則及びこの規則の定めるところによるほか、研究科細則に定める。

- 2 前項の場合において、修士課程経営管理専攻経営学修士コース経営分析プログラム（留学生プログラムを含む。）及び経営管理プログラムにおいては、特定の課題についての研究の成果（以下「研究の成果」という。）の審査をもって修士の学位論文の審査に代えるものとする。

(修士課程の学位論文)

第15条 修士課程の所定の単位を修得して修士の学位を得ようとする者は、学位論文（修士課程経営管理専攻経営学修士コース経営分析プログラム（留学生プログラムを含む。）及び経営管理プログラムにおいては研究の成果）を、研究科細則の定めるところにより所定の日までに研究科長あてに提出するものとする。ただし、論文又は研究の成果提出時から最終試験が終了するまで在学するものとする。

(博士後期課程在学者の学位論文)

第16条 博士後期課程の所定の単位を修得して博士の学位を得ようとする者は、学位論文を提出しなければならない。ただし、提出時から最終試験が終了するまで在学するものとする。

- 2 学位論文は、所定の日までに、研究科細則の定めるところにより研究科長あてに提出するものとする。

(博士後期課程在学者の学位論文提出資格)

第17条 博士後期課程経営管理専攻において、前条の学位論文を提出しようとする者は、学位論文計画書の審査に合格しなければならない。ただし、金融戦略・経営財務プログラムにおいては、学位論文提出資格審査の合格をもって、これに代えるものとする。

- 2 博士後期課程国際企業戦略専攻において、前条の学位論文を提出しようとする者は、学位論文提出資格審査に合格しなければならない。

- 3 第1項及び第2項に規定する学位論文計画書の審査及び学位論文提出資格審査については、研究科細則に定める。

(博士課程単位修得者の認定)

第18条 博士課程の単位を修得して、博士課程単位修得論文の審査に合格した者を博士課程単位修得者と認める。

- 2 前項の規定にかかわらず、経営管理専攻研究者養成コースにあつては、博士課程の単位を修得し、かつ、博士後期課程に3年以上在学した者が退学する者を博士課程単位修得者と認める。

- 3 第1項の規定にかかわらず、経営管理専攻金融戦略・経営財務プログラムにあつては、博士課程の単位を修得し、学位論文提出資格審査に合格した者を博士課程単位修得者と認める。

- 4 博士課程単位修得者の取扱いについては、研究科細則に定める。

(他の大学院等における修得単位の認定)

第19条 本研究科の修士課程及び博士後期課程において、学則第62条の規定により修得したものとみなすことのできる単位数は、15単位を限度とする。

- 2 本研究科の専門職学位課程国際企業戦略専攻（EMBAプログラムを除く。）において、学則第63条の規定により修得したものとみなすことのできる単位数は、25単位を限度とする。

- 3 前2項に基づく単位認定は、振替認定又は科目認定により行うこととし、その方法は別に定めるところによる。

(入学前の既修得単位等の認定)

第20条 本研究科の修士課程及び博士後期課程において、学則第65条の2の規定により修得したもの

とみなすことのできる単位は、編入学、転入学の場合を除き、本大学院において修得した単位以外のものについては、15単位を超えないものとし、前条により本研究科において修得したものとみなす単位数とあわせて20単位を超えないものとする。

- 2 本研究科の専門職学位課程国際企業戦略専攻（EMBAプログラムを除く。）において、学則第65条の3の規定により修得したものとみなすことのできる単位数は、転学等の場合を除き、本研究科において修得した単位以外のものについては、本研究科において修得したものとみなす単位数と合わせて25単位を超えないものとする。
- 3 前2項に基づく単位認定は、振替認定又は科目認定により行うこととし、その方法は別に定めるところによる。

（再入学）

第21条 学則第51条の規定に基づき再入学を志願する者については、選考の上、再入学を許可することがある。

- 2 前項の規定により、入学する者に係る選考に関する事項及び入学後の取扱いについては、別に定める。

（補則）

第22条 この規則に定めるもののほか、この規則の実施に必要な事項は研究科教授会が定める。

附 則

- 1 この規則は、平成30年4月1日から施行する。
- 2 平成30年度に修士課程経営管理専攻に入学する学部・修士5年一貫教育プログラム履修許可者の修了要件並びに履修すべき授業科目及び単位数については、第5条第1項及び第3項並びに別表（第8条関係）の規定にかかわらず、一橋大学大学院商学研究科規則（平成16年規則第92号）第3条及び別表（第5条関係）の規定によるものとする。

附 則

この規則は、平成30年7月4日から施行し、改正後の一橋大学大学院経営管理研究科規則の規定は、平成30年4月1日から適用する。

附 則

この規則は、平成30年9月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成30年12月5日から施行する。

附 則

- 1 この規則は、平成31年4月1日から施行する。
- 2 改正前の規則別表中に示された授業科目のうち、次表左欄に掲げる科目を履修した者は、同表右欄に掲げる科目を履修したものとして取り扱う。

旧規則上の授業科目	新規則上の授業科目
Special Topics on Management A	Special Topics on Business Administration A
Special Topics on Management B	Special Topics on Business Administration B
Special Topics on Management C	Special Topics on Business Administration C
Special Topics on Management D	Special Topics on Business Administration D
Special Topics on Management E	Special Topics on Business Administration E
Special Topics on Management F	Special Topics on Business Administration F
Special Topics on Management G	Special Topics on Business Administration G

Special Topics on Management H	Special Topics on Business Administration H
--------------------------------	---

3 改正前の規則に示された授業科目に基づいて修得した単位については、改正後においても有効とする。

附 則

- 1 この規則は、令和元年9月1日から施行する。
- 2 改正前の規則別表（第8条関係）に示された授業科目に基づいて修得した単位については、改正後においても有効とする。
- 3 平成30年度に国際企業戦略専攻に入学した者については、改正後の規則別表（第8条関係）に示された授業科目のうち、「Design Thinking」の区分は、選択科目（MBA）として取り扱う。

附 則

この規則は、令和2年1月8日から施行する。

附 則

- 1 この規則は、令和2年4月1日から施行する。
- 2 改正前の規則に示された授業科目に基づいて修得した単位については、改正後においても有効とする。

附 則

- 1 この規則は、令和2年9月1日から施行する。
- 2 改正前の規則に示された授業科目に基づいて修得した単位については、改正後においても有効とする。

附 則

この規則は、令和3年2月8日から施行し、改正後の一橋大学大学院経営管理研究科規則の規定は、平成30年4月1日から適用する。

附 則

- 1 この規則は、令和3年4月1日から施行する。
- 2 改正前の規則別表中に示された授業科目のうち、次表左欄に掲げる授業科目履修については、同表右欄に掲げる科目を履修したものとして取り扱う。

旧規則上の授業科目	新規則上の授業科目
特別講義（イノベーションの国際比較 B：アジアとイノベーション）	特別講義（イノベーションの国際比較 B）
M&Aの理論と実務	M&Aの理論と実務【みずほ証券寄附講義】
金融リスクマネジメントの理論と実務	金融リスクマネジメントの理論と実務 【みずほ証券寄附講義】
ポートフォリオマネジメントの理論と実務	ポートフォリオマネジメントの理論と実務 【アセットマネジメントOne・みずほ証券寄附講義】

3 改正前の規則に示された授業科目に基づいて修得した単位については、改正後においても有効とする。

附 則

この規則は、令和3年7月7日から施行し、改正後の一橋大学大学院経営管理研究科規則第2条第3項及び第4項、第6条、第7条第3項、第10条並びに別表（第8条関係）の規定は、令和3年4月1日から適用する。

附 則

- 1 この規則は、令和3年9月1日から施行する。
- 2 改正前の規則別表（第8条関係）に示された授業科目に基づいて修得した単位については、改正後においても有効とする。

附 則

- 1 この規則は、令和4年4月1日から施行する。
- 2 改正前の規則に示された授業科目に基づいて修得した単位については、改正後においても有効とする。

別表（第8条関係）

課程及び 専攻名	コース名・区分		授業科目	単位数
修士課程経 営管理専攻	研究者 養成 コース	共通基礎	研究方法特論	2
			データ分析特論	2
			文献精読特論	2
			ビジネス・エコノミクス特論（共）	2
			アカデミック・リーディング特論	2
			経営組織特論	2
			経営戦略特論	2
			財務管理特論	2
			企業システム特論	2
			労務管理特論	2
			経営史特論	2
			イノベーション経営特論	2
			イノベーション経済特論	2
			技術戦略特論	2
			知的財産特論	2
			アントレプレナーシップ特論	2
			特別講義（イノベーションの国際比較A）	2
			特別講義（イノベーションの国際比較B）	2
			特別講義（International Market Research Method）	1
			特別講義（デザイン・リサーチ）	1
			特別講義（情報技術経営のフロンティア）	1
			先端科学技術とイノベーション	2
			イノベーションと政策・制度	2
			イノベーションと経営・経済・政策	2
			イノベーション研究方法論	2
			イノベーションリサーチセミナーⅠ	2
			イノベーションリサーチセミナーⅡ	2
			マーケティング・リサーチ特論（共）	2
			マーケティング特論	2
			消費者行動特論	2
			マーケティング戦略特論	2
			スポーツ・マネジメント特論	2
			商業文化特論	2
		管理会計システム特論	2	
		監査特論	2	
		財務会計特論	2	
		実証的会計分析特論	2	
		会計学史特論	2	
		管理会計特論	2	
		原価計算特論	2	
		企業金融特論	2	

		資産価格特論	2
		国際金融特論	2
		金融システム特論	2
		金融数理特論	2
		Finance Special Field A	1
		Finance Special Field B	1
		コンピューター・シミュレーション特論	2
		Managing the SDGs - SIGMA Global Active Learning	2
	日本語学習科目 (研究者養成コース)	日本語ライティング I	1
		日本語ライティング II	1
		日本語リーディング I	1
		日本語リーディング II	1
	演習	演習 副演習	6 2又は4
経営学修士コース・経営分析プログラム	コア科目	経営戦略 マーケティング 財務会計 企業財務 経営組織 管理会計 企業データ分析 経営哲学 理論構築の方法	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2
	選択科目	戦略分析 ビジネス・エコノミクス マーケティング・リサーチ特論 (共) 証券分析とポートフォリオマネジメント 国際金融 金融リスクマネジメント M&Aの理論と実務【みずほ証券寄附講義】 特別講義 (企業経営分析) 特別講義 (組織の創造性) 金融リスクマネジメントの理論と実務【みずほ証券寄附講義】 ポートフォリオマネジメントの理論と実務【アセットマネジメントOne・みずほ証券寄附講義】 Global Management Global Marketing International Accounting Money and Finance Advanced Course in Management (MBA) Advanced Course in Marketing (MBA) Advanced Course in Accounting	2 2 2 2 2 2 2 2 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2

		(MBA)	
		Advanced Course in Finance (MBA)	2
		Special topics on Management and Marketing A (MBA)	2
		Special topics on Management and Marketing B (MBA)	2
		Special topics on Management and Marketing C (MBA)	2
		Special topics on Management and Marketing D (MBA)	2
		Special topics on Management and Marketing E (MBA)	2
		Special topics on Accounting and Finance A (MBA)	2
		Special topics on Accounting and Finance B (MBA)	2
		Special topics on Accounting and Finance C (MBA)	2
		Special topics on Accounting and Finance D (MBA)	2
		Special topics on Accounting and Finance E (MBA)	2
		Professional Presentations	2
		Professional Communication : Meeting and Email	2
		Managing the SDGs - SIGMA Global Active Learning	2
	英語コミュニケーション科目	English Communication	2
	日本語学習科目 (経営学修士コース)	日本語集中講義A 日本語集中講義B 日本語集中講義C 日本語集中講義D 日本語集中講義E 日本語集中講義F 日本語集中講義G 日本語集中講義H	1 1 1 1 1 1 1 1
	演習	古典講読 ワークショップ 留学生演習Ⅰ 留学生演習Ⅱ	2 6 2 2
経営学修士コース・経営管理プログラム	コア科目	経営戦略 マーケティング 財務会計 企業財務 経営組織 マネジメント・コントロール	2 2 2 2 2 2

			企業データ分析	2
			経営哲学	2
			理論構築の方法	2
		選択科目	人材マネジメント	2
			テクノロジー・マネジメント	2
			M&Aの理論と実務	2
			シナリオ・プランニング	2
			ホスピタリティ・マネジメント	2
			ホスピタリティ・マーケティング	2
			Global Management	2
			Global Marketing	2
			International Accounting	2
			Money and Finance	2
			経営者講義A	1
			経営者講義B	1
			経営者講義C	1
			ビジネス・デベロップメント【三枝匡 経営者育成基金寄附講義】	2
			経営実戦論【三枝匡経営者育成基金寄 附講義】	1
			特別講義（ホスピタリティ）	1
			特別講義（ホスピタリティ・コンサル ティング）	1
			特別講義（デスティネーション・マー ケティング）	1
			特別講義（イノベーション・マネジメ ント）	1
		演習	導入ワークショップ	2
			基礎ワークショップ	2
			ワークショップ	6
修士課程及 び博士後期 課程経営管 理専攻	金融戦略・経営財 務プログラム	基礎科目	ファイナンス理論の基礎	2
			ファイナンス理論	2
			金融データ分析の基礎	2
			コーポレートファイナンスの基礎	2
			会計・バリュエーションの基礎	2
			コンピューティショナル・ファイナンス	2
			金融数理の基礎	2
		専門科目	金融数理入門	1
			線形モデル入門	1
			金融リスク計量入門	1
			時系列分析入門	1
			金融データリテラシーⅠ	1
			金融データリテラシーⅡ	1
			ポートフォリオ投資論	2
			資産価格の実証分析	2
			ファイナンスにおける諸問題	1
			派生証券理論	2
			投資戦略論	2
			ファイナンシャル・リスク・マネジメ	2

ント	
金融数理	2
金融データ分析	2
ベイズ統計学 (MCMC法)	1
データサイエンス概論	2
アルゴリズム取引の数理	1
経済データの時系列分析	1
金融データ分析：演習	2
エナジー・ファイナンス	1
金融リスク計量における諸問題	1
統計科学の数理 (推定手法・モデル選択)	1
企業価値向上論 I	1
M&A実践論 I	1
アントレプレナー・ファイナンス	2
国際財務管理	1
コーポレート・ファイナンスに関する諸問題	1
CFOと企業価値	1
業績管理会計	1
グローバルM&A	1
アントレプレナー・ファイナンス：エッセンス	1
金融経済学 (情報とインセンティブ)	1
金融機関の戦略的経営	1
プライベート・エクイティと資本市場	2
プライベート・エクイティと課題	1
グローバル金融規制と新たなリスクへの対応	2
社会システム工学	1
人工知能概論	1
グローバル・リーダーシップ	2
マネジリアル・エコノミクス	1
マネタリー・エコノミクス	1
企業戦略論	1
サービス経営のファイナンス	1
行動経済学	1
経営における職業倫理	1
資産価格理論	1
金融市場の計量ファイナンス	1
コーポレート・ファイナンスの実証分析 I	1
コーポレート・ファイナンスの実証分析 II	1
M&Aと事業再生の実践 I (KPMG FAS 寄附講義)	1
M&Aと事業再生の実践 II (KPMG FAS 寄附講義)	1
FinTechと金融市場 (寄附講義)	2
FinTechとイノベーション (寄附講義)	1

			FinTechと資産管理（寄附講義）	1
			FinTechとイノベーションⅡ	1
			グローバル金融システム	1
			企業倫理とESG	2
			副演習（1年生）	2
			副演習（2年生）	2
			副演習（3年生）	2
			副演習	1
			統計プログラミング入門	1
			統計プログラミング	1
		演習	演習（1年生）	2
			演習（2年生）	2
			演習（3年生）	2
博士後期課程経営管理専攻	研究者養成コース	共通基礎	研究倫理と論文作法	2
			研究領域特論	2
			管理会計特論（Ph.D）	2
		演習	研究領域演習	6
		研究領域副演習	4	
		演習	6	
		副演習	2又は4	
	研究者養成コース イノベーション・マネジメント・プログラム		イノベーション・マネジメント・リサーチ・セミナーA	1
		イノベーション・マネジメント・リサーチ・セミナーB	1	
演習		演習 副演習	6 2又は4	
専門職学位課程及び博士後期課程国際企業戦略専攻	MBAプログラム	必修科目	Strategy I	2
			Knowledge Management	2
			Marketing	2
			Corporate Finance I	2
			Corporate Finance II	2
			Quantitative Business Analytics	2
			Accounting I	2
			Operations Management	2
			Accounting II	2
			Business, Government, and International Economy	2
			Japanese Business and Economy I	2
			Capstone Project	2
			Economics for Managers	2
			Organizational Behavior I	2
			Organizational Behavior II	2
			Strategy II	2
	Writing for Business	2		
Global Citizenship	2			
	選択科目	Marketing Research & Analytics	2	
		Corporate Governance	2	
		Dynamic Competitive Strategy	2	

Topics in Innovation I	2
Microeconomics for Managers	2
Strategy in Emerging Markets	2
Customer Behavior	2
Brand Strategy and Design	2
Topics in Technology I	2
Topics in International Business and Economy I	2
Equity Investments	2
Service Management	2
Competitiveness and Clusters	2
Topics in Technology II	2
Topics in International Business and Economy II	2
Topics in Operation I	2
Independent Research	2
Topics in Finance I	2
Topics in Finance II	2
Entrepreneurial Finance	2
Company and Equity Analysis	2
Control	2
Applied Corporate Finance	2
Entrepreneurial Management	2
Topics in Business Ethics I	2
Topics in Business Ethics II	2
Human Resource Management	2
Topics in Innovation II	2
Topics in Finance III	2
Topics in Marketing I	2
Topics in Marketing II	2
Topics in Organizational Behavior I	2
Topics in Organizational Behavior II	2
Topics in Strategy I	2
Topics in Strategy II	2
Topics in Knowledge Management I	2
Topics in Knowledge Management II	2
Global Business	2
Capital Markets	2
Management of Energy Business	2
Corporate Entrepreneurship	2
Applied Operations Management	2
Knowledge Generation	2
Negotiation	2
Topics on Japan I	2
Topics on Japan II	2
Intensive Writing	2
Presentation Skills	1
Japanese Business and Economy II	2
Japanese Business and Economy III	2
Design Thinking	2

		Wise Leadership	2
		Creativity and Innovation	2
		Leadership Development	2
		Leading for Sustainability	2
		Japanese Language, Basic 1	2
		Japanese Language, Basic 2	1
		Japanese Language, Basic 3	1
		Japanese Language, Basic 4	2
		Japanese Language, Intermediate 1	2
		Japanese Language, Intermediate 2	1
		Japanese Language, Intermediate 3	1
		Japanese Language, Intermediate 4	2
		Japanese Language, Advanced 1	1
		Japanese Language, Advanced 2	1
		Japanese Language, Advanced 3	2
		Japanese Language, Advanced 4	2
		Chinese Language 1	2
		Chinese Language 2	2
		Korean Language 1	2
		Korean Language 2	2
	特別科目	Japanese Culture	2
		Strategy Simulation Week	2
		Global Network Week	1
		Doing Business in Asia	2
		Global Network Course I	1
		Global Network Course II	2
		Managing the SDGs - SIGMA Global Active Learning	2
	演習	Seminar I	2
		Seminar II	2
EMB Aプログラム	必修科目	Pursuing Differentiation	1
		Realizing Customer Value	1
		Leading Innovation	1
		Creating Knowledge for the Future	1
		Getting Things Done	1
		Leading Across Diversity and Culture	1
		Making Decisions for Shared Value	1
		Financing for Growth and Sustainability	2
		Measuring and Delivering Performances	1
		Mastery Forum	4
		Inspiring People and Organizations	1
		Mastery Project	4
		Becoming an Effective Leader in a Time of Change	1
		Entrepreneurship	1
	特別科目	Mastery Launch Pad	2
		Leadership Circles	1
		Mastery Immersion I	3
		Mastery Immersion II	3

		Mastery Immersion III	3
		Management Essentials	2
D B A プログラ ム	必修科目	Research Method	2
		Advanced Research Positioning I A	1
		Advanced Research Positioning I B	1
		Advanced Research Positioning II A	1
		Advanced Research Positioning II B	1
	選択科目	Advanced Research Methods — Quantitative	2
		Advanced Research Methods — Quantitative 2	2
		Advanced Research Methods — Qualitative	2
		Advanced Research Methods — Qualitative 2	2
		Advanced Research Methods — Experimental	2
		Advanced Research Methods — Experimental 2	2
		Advanced Research Methods — Data Analysis	2
		Advanced Research Methods — Modelling	2
		Advanced Research Methods — Behavioral Science	2
		Human Resource Management & Leadership	2
		Organizational Behavior	2
		Strategy	2
		Decision Science	2
		Marketing	2
		Finance & Accounting	2
		Economic Sociology	2
		Industrial psychology	2
		Consumer Behavior	2
		Game and Contract Theory for Management and Finance Studies	2
		特別科目	Research Positioning I A
	Research Positioning I B		1
	Research Positioning II A		1
Research Positioning II B	1		
Research Positioning III A	1		
Research Positioning III B	1		
演習	Seminar A	4	
	Seminar B	4	
	Seminar C	4	
派遣留学に関する科目		派遣留学特別講義	1～

備考

単位数が「2又は4」又は「1～」とある科目については、授業開講形態に応じた単位を付与する。

7. 一橋大学大学院経営管理研究科細則

(目的)

第1条 この細則は、一橋大学大学院経営管理研究科規則（平成30年規則第52号。以下「研究科規則」という。）中、別に定めるように規定されている事項及び研究科規則の施行に必要な事項について定めるものとする。

(修士課程の履修)

第2条 修士課程経営管理専攻研究者養成コース（留学生プログラムを除く。）においては、講義20単位以上、演習12単位以上、合計32単位以上を、同コース留学生プログラムにおいては講義22単位以上、演習12単位以上、合計34単位以上を修得しなければならない。

2 前項の規定にかかわらず、研究科規則第5条第1項の規定に基づき在学期間の特例を認めた者については、所属するコースの講義の単位をもって6単位まで演習の単位に代えることができる。

3 修士課程経営管理専攻経営学修士コース経営分析プログラム（留学生プログラムを除く。）においては、講義26単位以上、演習8単位以上、合計34単位以上を、同プログラム留学生プログラムにおいては、講義28単位以上、演習10単位以上、合計38単位以上を、同コース経営管理プログラムにおいては、講義24単位以上、演習10単位以上、合計34単位以上を、同コース金融戦略・経営財務プログラムにおいては、講義26単位以上、演習8単位以上、合計34単位以上を修得しなければならない。

4 前項の規定にかかわらず、修士課程経営管理専攻経営学修士コース金融戦略・経営財務プログラムにおいては、研究科規則第5条第6項の規定に基づき在学期間の特例を認めた者については、所属するプログラムの講義の単位をもって4単位まで演習の単位に代えることができる。

5 経営管理研究科（以下「本研究科」という。）の授業科目を、本研究科修士課程に入学する前に履修し、試験に合格している者については、経営管理研究科教授会（以下「研究科教授会」という。）が認めた場合は、当該授業科目の単位数を16単位を限度として、第1項又は第3項の修得単位に算入することができる。ただし、商学部の授業科目としても指定されている授業科目であって、その単位数を除いても本学の商学部又は商学部以外の他の学部を卒業するのに必要とされる単位数を満たした場合に限る。

(専門職学位課程の履修)

第3条 専門職学位課程国際企業戦略専攻MBA2年プログラム（以下「2年プログラム」という。）においては、講義52単位以上、演習4単位以上、合計56単位以上を修得し、かつ、そのうち32単位以上はA+、A、B又はPの成績でなければならない。また、1年次の各学期において4単位以上（第4学期においてインターンシップを履修した場合、国際企業戦略専攻長がやむを得ない事由があると認めた場合又は修学上特に必要であると認めた場合を除く。）を修得しなければならない。

2 専門職学位課程国際企業戦略専攻MBA1年プログラム（以下「1年プログラム」という。）及びヤング・リーダーズ・プログラム・ビジネスコース（以下「YLPビジネスコース」という。）においては、講義52単位以上、演習2単位以上、合計54単位以上を修得し、かつ、そのうち32単位以上はA+、A、B又はPの成績でなければならない。また、各学期において6単位以上（国際企業戦略専攻長がやむを得ない事由があると認めた場合又は修学上特に必要であると認めた場合を除く。）を修得しなければならない。

3 前2項の規定にかかわらず、ダブルディグリー学生等の履修については、専門職学位課程国際企業戦略専攻において別に定める。

4 専門職学位課程国際企業戦略専攻EMBAプログラムにおいては、講義30単位以上を修得しなければならない。

5 第1項から第4項までの規定にかかわらず、国際企業戦略専攻長が修学上やむを得ない事由があると認めた者に係る履修については、専門職学位課程国際企業戦略専攻において別に定める。

(博士後期課程の履修)

第4条 博士後期課程経営管理専攻研究者養成コース（イノベーション・マネジメント・プログラムを除く。）においては、「研究領域演習」18単位、「研究倫理と論文作法」2単位を含む合計20単位以上を修得しなければならない。ただし、研究科長が認めた者については、所属するコースの授

業科目2単位の修得をもって「研究倫理と論文作法」2単位の代えることができる。

- 2 前項の規定にかかわらず、研究科規則第7条第1項の規定に基づき在学期間の特例を認めた者については、所属するコースの講義の単位をもって12単位まで演習の単位に代えることができる。
- 3 博士後期課程経営管理専攻研究者養成コースイノベーション・マネジメント・プログラムにおいては、所属するプログラムの授業科目のうちから講義2単位以上、演習18単位以上、合計20単位以上を修得しなければならない。
- 4 博士後期課程経営管理専攻金融戦略・経営財務プログラムにおいては、演習12単位以上を修得しなければならない。
- 5 前項の規定にかかわらず、研究科規則第7条第2項の規定に基づき在学期間の特例を認めた者については、所属するプログラムの講義の単位をもって8単位まで演習の単位に代えることができる。
- 6 博士後期課程国際企業戦略専攻においては、DBAプログラムの必修科目のすべて、選択科目2単位以上、特別科目のすべて及び演習12単位以上を修得しなければならない。

(修士課程の授業科目の範囲)

第5条 修士課程経営管理専攻研究者養成コースにおいては、所属するコースの授業科目のうちから、16単位以上(演習を含む。)を修得しなければならない。

- 2 修士課程経営管理専攻研究者養成コース留学生プログラムにおいては、第1項に規定する単位に加えて、日本語学習科目(研究者養成コース)4単位を修得しなければならない。
- 3 修士課程経営管理専攻経営学修士コース経営分析プログラム(留学生プログラムを除く。)においては、所属するプログラムのコア科目及び選択科目のうちから、12科目24単位以上(ただし、コア科目のうちから「経営戦略」「マーケティング」「財務会計」「企業財務」の4科目を含む6科目12単位以上)、英語コミュニケーション科目2単位を修得しなければならない。ただし、英語コミュニケーション科目2単位については、学部・修士5年一貫教育プログラムの授業履修資格者のうち、派遣留学のためにこれを履修できないものが指定する期日までに経営管理専攻長に願い出を行った場合で、経営管理専攻長が研究科教授会の議を経てこれを認めたときは、経営学修士コース経営分析プログラム科目のうち、英語で開講される選択科目2単位の修得をもって代えることができるものとする。
- 4 修士課程経営管理専攻経営学修士コース経営分析プログラム留学生プログラムにおいては、所属するプログラムのコア科目及び選択科目のうちから、10科目20単位以上(ただし、コア科目のうちから「経営戦略」「マーケティング」「財務会計」「企業財務」の4科目を含む6科目12単位以上)、日本語学習科目(経営学修士コース)8単位を修得しなければならない。
- 5 修士課程経営管理専攻経営学修士コース経営管理プログラムにおいては、所属するプログラムのコア科目及び選択科目のうちから、12科目24単位以上(ただし、コア科目のうちから「経営戦略」「マーケティング」「財務会計」「企業財務」の4科目を含む6科目12単位以上)を修得しなければならない。
- 6 修士課程経営管理専攻経営学修士コース金融戦略・経営財務プログラムにおいては、所属するプログラムの授業科目(演習を含む。)のうちから、26単位以上を修得しなければならない。ただし、次の基礎科目のうちから4科目以上を修得しなければならない。
 - 一 ファイナンス理論の基礎
 - 二 金融データ分析の基礎
 - 三 コーポレートファイナンスの基礎
 - 四 会計・バリュエーションの基礎
 - 五 ファイナンス理論
 - 六 コンピュータショナル・ファイナンス
 - 七 金融数理の基礎

第6条 修士課程経営管理専攻研究者養成コースにおいては、所属する専攻及びコース以外の本研究科の授業科目(ただし、経営管理専攻経営分析プログラム及び経営管理プログラムの授業科目及び別に指定するものを除く。)、他の研究科の授業科目及び一橋大学学部履修規則(平成16年規則第117号。以下「学部履修規則」という。)別表に掲げる学部発展科目を履修することができる。ただし、学部発展科目を履修する場合には、8単位を超えることはできない。

- 2 修士課程経営管理専攻経営学修士コース経営分析プログラム（留学生プログラムを含む。）及び経営管理プログラムにおいては、所属する専攻及びコース以外の授業科目（ただし、別に指定するものを除く。）、他の研究科の授業科目、及び学部履修規則別表に掲げる学部発展科目を履修することができる。
 - 3 前項本文の規定にかかわらず、配当年次が異なる科目は原則として履修できない。ただし、留学生プログラムの学生及び学部・修士5年一貫教育プログラム履修許可者のうち学部4年次の前半に本学から海外の協定大学に派遣されていた者が、1年次に配当されている科目を2年次（学部・修士5年一貫教育プログラム履修許可者の場合は、修士1年次）に履修しようとする場合には、この限りではない。
 - 4 第1項及び第2項に規定される学部発展科目を履修する場合には、社会学部の科目群外講義のうち、英文学講義Ⅰ、英文学講義Ⅱ、英文学原典講読Ⅰ、英文学原典講読Ⅱ、英語(二)、英語(三)、英語(四)、英語(五)、英語(六)、英語(七)、英語(八)、英文学史Ⅰ、英文学史Ⅱ、英語圏文化Ⅰ及び英語圏文化Ⅱを除くものとする。
 - 5 修士課程経営管理専攻経営学修士コース金融戦略・経営財務プログラムにおいては、所属する専攻及びコース以外の本研究科の授業科目（ただし、経営管理専攻経営分析プログラムの授業科目及び別に指定するものを除く。）並びに他の研究科の授業科目を履修することができる。
 - 6 第1項、第2項及び前項に規定される他の研究科の授業科目を履修する場合には、次に掲げるものを除くものとする
 - 一 法学研究科専門職学位課程法務専攻の科目
 - 二 国際・公共政策教育部のインターンシップ、コンサルティング・プロジェクト、ワークショップ、海外調査及び派遣留学特別講義並びに法学研究科専門職学位課程法務専攻との共通開講科目
 - 7 経営管理専攻内の異なるコース又はプログラムの授業科目の履修については、当該授業科目担当教員及び経営管理専攻長の承認を得なければならない。
 - 8 経営管理研究科内の他専攻の授業科目の履修については、当該授業科目担当教員、経営管理専攻長及び国際企業戦略専攻長の承認を得なければならない。
 - 9 修士課程経営管理専攻において、博士後期課程経営管理専攻金融戦略・経営財務プログラム科目を履修する場合は、当該授業科目担当教員の承認を得なければならない。
（専門職学位課程の授業科目の範囲）
- 第7条 専門職学位課程国際企業戦略専攻に所属する者については、所属する専攻において指定された授業科目（演習を含む。）のうちから56単位以上（ただし、1年プログラム及びYLPビジネスコースにおいては54単位以上）を修得し、かつ、そのうち32単位以上はA+、A、B又はPの成績でなければならない。
- 2 前項に掲げる者は、MBAプログラムの必修科目36単位、特別科目のうち「Strategy Simulation Week」及び演習のうち「Seminar I」の計40単位を1年次に修得しなければならない。ただし、国際企業戦略専攻長がやむを得ない事由があると認めた場合又は修学上特に必要であると認めた場合は、1年次に修得すべき科目の一部を2年次に履修することができる。
 - 3 前2項の規定にかかわらず、国際企業戦略専攻EMBAプログラムにおいては、所属するプログラムにおいて指定された授業科目（Mastery Forumを含む。）のうちから30単位以上を修得しなければならない。
 - 4 所属する専攻以外の本研究科の授業科目（ただし、修士課程経営管理専攻経営分析プログラムの授業科目及び別に指定するものを除く。）及び他の研究科の授業科目を履修することができる。ただし、経営管理研究科内の他専攻の授業科目の履修については、当該授業科目担当教員経営管理専攻長の承認を得なければならない。
 - 5 前項に規定される他の研究科の授業科目を履修する場合には、次に掲げるものを除くものとする。
 - 一 法学研究科専門職学位課程法務専攻の科目
 - 二 国際・公共政策教育部のインターンシップ、コンサルティング・プロジェクト、ワークショップ、海外調査及び派遣留学特別講義並びに法学研究科専門職学位課程法務専攻との共通開講科目（博士後期課程の授業科目の範囲）
- 第8条 博士後期課程経営管理専攻研究者養成コースにおいては、所属する専攻及びコース以外の本

研究科の授業科目（ただし、経営学修士コース経営分析プログラム及び経営管理プログラムの授業科目及び別に指定するものを除く。）並びに他の研究科の授業科目を履修することができる。

- 2 経営管理専攻に所属する者が、経営管理専攻の異なるコース又はプログラムの授業科目を履修する場合は、当該授業科目担当教員及び経営管理専攻長の承認を得なければならない。
- 3 経営管理専攻に所属する者が、国際企業戦略専攻の授業科目を履修する場合は、当該授業科目担当教員、経営管理専攻長及び国際企業戦略専攻長の承認を得なければならない。
- 4 第1項に規定される他の研究科の授業科目を履修する場合には、次に掲げるものを除くものとする。

一 法学研究科専門職学位課程法務専攻の科目

二 国際・公共政策教育部のインターンシップ、コンサルティング・プロジェクト、ワークショップ、海外調査及び派遣留学特別講義並びに法学研究科専門職学位課程法務専攻との共通開講科目（重複履修の制限）

第9条 同一教員による同一の授業科目を重複して履修することはできない。ただし、修士課程経営管理専攻研究者養成コースの共通基礎科目、修士課程経営学修士コース経営分析プログラム及び経営管理プログラムの科目（別に指定する科目を除く）及び学部発展科目については、異なる教員が担当する場合でも、同一の授業科目を重複して履修することはできない。

- 2 修士課程経営学修士コース経営分析プログラム留学生プログラムにおいては、日本語学習科目（経営学修士コース）に関する1年次の履修単位数が8単位に満たない場合は、前項の規定にかかわらず、同一教員による同一の日本語学習科目（経営学修士コース）を翌年度以降に重複して履修することができる。ただし、履修対象となる授業科目は経営管理専攻長が指定する。
- 3 修士課程経営管理専攻経営学修士コース金融戦略・経営財務プログラム及び博士後期課程経営管理専攻金融戦略・経営財務プログラムに所属する者については、第1項の規定にかかわらず、授業科目を重複して履修することができる。ただし、第2条第3項及び第4条第4項に規定する修得単位には算入できない。
- 4 専門職学位課程国際企業戦略専攻及び博士後期課程国際企業戦略専攻に所属する者については、第1項の規定にかかわらず、授業科目を重複して履修することができる。ただし、第3条及び第4条第6項に規定する修得単位には算入できない。

（演習指導教員）

第10条 修士課程経営管理専攻研究者養成コースにおいては、演習を履修するにあたり、指導を志望する演習指導教員に承認を得なければならない。また、在学期間中における演習指導教員の変更は、原則として認めない。

- 2 博士後期課程経営管理専攻研究者養成コース（イノベーション・マネジメント・プログラムを除く。）においては、演習を履修するにあたり、所属を志望する研究領域の演習を担当する演習指導教員及び第10条の2に定める研究指導教員に承認を得なければならない。また、当該演習科目の受講期間中における演習指導教員の変更は、原則として認めない。
- 3 博士後期課程経営管理専攻研究者養成コースイノベーション・マネジメント・プログラムにおいては、演習科目ごとに演習指導教員を指定する。また、在学期間中における演習指導教員の変更は、原則として認めない。
- 4 修士課程経営管理専攻経営学修士コース（金融戦略・経営財務プログラムを除く。）においては、演習科目ごとに演習指導教員を指定する。また、当該演習科目の受講期間中における演習指導教員の変更は、原則として認めない。
- 5 修士課程経営管理専攻経営学修士コース金融戦略・経営財務プログラム及び博士後期課程経営管理専攻金融戦略・経営財務プログラムにおいては、演習を履修するにあたり、指導を志望する演習指導教員に承認を得なければならない。
- 6 専門職学位課程国際企業戦略専攻及び博士後期課程国際企業戦略専攻においては、演習を履修するにあたり、指導を志望する演習指導教員に承認を得なければならない。また、在学期間中における演習指導教員の変更は、原則として認めない。

（研究指導教員）

第10条の2 博士後期課程経営管理専攻研究者養成コース（イノベーション・マネジメント・プログラムを除く。）においては、入学、進学、編入学及び再入学時に研究指導教員を登録し、在学期間

を通じて研究指導を受けなければならない。

- 2 在学期間中における研究指導教員の変更は、原則として認めない。

(演習の履修)

第11条 修士課程経営管理専攻研究者養成コース及び経営学修士コース金融戦略・経営財務プログラム並びに博士後期課程経営管理専攻研究者養成コース及び金融戦略・経営財務プログラムの演習は、入学、進学、編入学及び再入学時に所属する専攻の演習担当教員の演習のうちから履修しなければならない。

- 2 修士課程経営管理専攻経営学修士コース経営分析プログラム(留学生プログラムを除く。)の演習は、1年次に「古典講読」を、2年次に「ワークショップ」を履修しなければならない。ただし、「ワークショップ」を履修するためには、「古典講読」、英語コミュニケーション科目2単位並びにコア科目の「経営戦略」、「マーケティング」、「財務会計」及び「企業財務」のうちから2科目4単位以上を修得しなければならない。
- 3 前項の規定にかかわらず、学部・修士5年一貫教育プログラムの授業履修資格者のうち、派遣留学のために「古典講読」及び英語コミュニケーション科目を履修できないものが、指定する期日までに経営管理専攻長に願い出を行った場合で、経営管理専攻長が研究科教授会の議を経てこれを認めるときは、「古典講読」については「留学生演習Ⅱ」、英語コミュニケーション科目については経営学修士コース経営分析プログラム選択科目のうち、英語で開講される選択科目2単位の修得をもって代えることができるものとする。この場合において、前項ただし書の規定は適用しない。
- 4 修士課程経営管理専攻経営学修士コース経営分析プログラム留学生プログラムの演習は、1年次に「留学生演習Ⅰ」及び「留学生演習Ⅱ」を、2年次に「ワークショップ」を履修しなければならない。ただし、「ワークショップ」を履修するためには、「留学生演習Ⅰ」及び「留学生演習Ⅱ」、日本語学習科目(経営学修士コース)6単位以上並びにコア科目の「経営戦略」、「マーケティング」、「財務会計」及び「企業財務」のうちから1科目2単位以上を修得しなければならない。
- 5 修士課程経営管理専攻経営学修士コース経営管理プログラムの演習は、1年次に「導入ワークショップ」及び「基礎ワークショップ」を、2年次に「ワークショップ」を履修しなければならない。ただし、「ワークショップ」を履修するためには、「導入ワークショップ」、「基礎ワークショップ」並びにコア科目の「経営戦略」、「マーケティング」、「財務会計」及び「企業財務」のうちから2科目4単位以上を修得しなければならない。
- 6 専門職学位課程国際企業戦略専攻及び博士後期課程国際企業戦略専攻の演習は、入学、進学、編入学及び再入学時に所属する専攻の演習指導教員の演習のうちから履修しなければならない。

(副演習の履修)

第12条 修士課程経営管理専攻及び博士後期課程経営管理専攻に所属する者(修士課程経営管理専攻経営学修士コース金融戦略・経営財務プログラム及び博士後期課程経営管理専攻金融戦略・経営財務プログラムに所属する者を除く。)は前条に規定する演習のほか、本研究科(修士課程経営管理専攻経営学修士コースのうち経営分析プログラム及び経営管理プログラムを除く。)及び他の研究科の演習を副演習として履修することができる。

- 2 前項の規定において履修する副演習の履修については、毎年度、指導を志望する演習担当教員に承認を得なければならない。
- 3 第1項の規定において履修する副演習の単位は、毎年度4単位を限度として、修士課程経営管理専攻研究者養成コースにおいては所属する専攻の講義に、修士課程経営管理専攻経営学修士コースにおいては選択科目に代えることができる。
- 4 第1項の規定において履修する副演習の単位は、博士後期課程経営管理専攻研究者養成コースにおいては修了要件には含めないものとする。
- 5 修士課程経営管理専攻経営学修士コース金融戦略・経営財務プログラム及び博士後期課程経営管理専攻金融戦略・経営財務プログラムに所属する者については、所属するプログラムの副演習を履修することができる。
- 6 前項の規定において履修する副演習は、毎年度4単位を限度として、所属するプログラムの講義の単位とする。ただし、修了要件の演習8単位には含めないものとする。
- 7 第1項に規定される他の研究科の演習を履修する場合には、法学研究科専門職学位課程法務専攻

の科目を除くものとする。

(履修科目の登録の限度)

第13条 専門職学位課程国際企業戦略専攻2年プログラムにおいては、履修科目として登録することができる単位数の限度を各学年において68単位とする。

2 専門職学位課程国際企業戦略専攻1年プログラム、YLPビジネスコース及びEMBAプログラムにおいては、履修科目として登録することができる単位数の限度を設けない。

3 第1項に規定される履修登録の限度は、国際企業戦略専攻長が修学上必要であると判断した場合はこの限りでない。

(成績評価)

第14条 履修科目、修士課程の学位論文又は研究科規則第14条第2項に規定する特定の課題についての研究の成果(以下「研究の成果」という。)の成績は、A+、A、B、C及びFの5段階とし、A+、A、B及びCを合格とし、Fを不合格とする。ただし、演習及び修士課程経営管理専攻経営学修士コース金融戦略・経営財務プログラムの副演習の成績は、E(合格)及びF(不合格)の2段階とする。

2 博士後期課程経営管理専攻在学者の学位論文の成績は、E(合格)及びF(不合格)の2段階とする。

3 専門職学位課程及び博士後期課程国際企業戦略専攻の演習及び特別科目の成績は、P(合格)及びNP(不合格)の2段階とする。

4 博士後期課程国際企業戦略専攻における学位論文及び単位修得論文の成績は、P(合格)及びNP(不合格)の2段階とする。

(GPAによる成績評価)

第14条の2 前条に定める成績評価に付与するGP(Grade Point)及びGPA(Grade Point Average)の算出については別に定める。

(単位の授与)

第15条 履修科目の合格者には、所定の単位を与える。

2 通年の授業科目である演習を春学期及び夏学期又は秋学期及び冬学期のいずれか2学期(半年)間履修したときは、所定の単位数の2分の1の単位を与えることができる。

(他の大学院等における修得単位認定に係る手続き)

第16条 研究科規則第19条の規定に基づき、他大学院等における修得単位の認定を受けようとする者は、所定の期日までに、研究科長あての所定の書式により申請するものとする。なお、申請書類の提出方法は、本研究科の定めるところによる。

(入学前の既修得単位等認定に係る手続き)

第17条 研究科規則第20条の規定に基づき、入学前の既修得単位数の認定を受けようとする者は、所定の期日までに、研究科長あての所定の書式により申請するものとする。なお、申請書類の提出方法は、本研究科の定めるところによる。

2 研究科規則第20条第1項の規定に基づき認定された授業科目の成績は、E(合格)とする。ただし、博士後期課程国際企業戦略専攻においては、P(合格)とする。

3 研究科規則第20条第2項の規定に基づき認定された授業科目の成績は、P(合格)とする。

(単位の認定)

第18条 単位の認定は、研究科教授会の議を経て学長が行う。

(追試験)

第19条 追試験を受けようとする者は、所定の用紙に、医師の診断書その他必要な証明書類を添えて、所定の期日までに、所属する専攻の専攻長あてに提出しなければならない。

2 追試験の許可は、経営管理研究科長(以下「研究科長」という。)が行う。

(博士後期課程進学資格者)

第20条 本研究科の博士後期課程進学資格者は、本研究科(旧商学研究科及び旧国際企業戦略研究科を含む。)修士課程及び専門職学位課程を修了し、かつ、本研究科の博士後期課程を引き続き履修するに相当と認められた者とし、選考の上、進学を許可する。

2 博士後期課程経営管理専攻(金融戦略・経営財務プログラムを除く。)への進学希望者は、修士課程の学位論文、研究の成果、又は研究業績とともに「進学願」を届け出なければならない。

(博士後期課程編入学資格者)

第21条 本研究科の博士後期課程編入学資格者は、次のいずれかに該当し、かつ志望の専攻を履修するに相当と認められた者とし、選考の上、編入学を許可する。

- 一 本学（本研究科（旧商学研究科及び旧国際企業戦略研究科を含む。）を除く）及び他大学大学院の修士課程又は専門職学位課程を修了した者
- 二 外国の大学の大学院を修了し、かつ、日本の大学の修士に相当する学位を授与された者
- 三 その他研究科教授会において、修士の学位を有する者と同等の学力があると認められた者
(修士課程の学位論文等の提出)

第22条 修士課程の所定の単位を修得して修士の学位を得ようとする者は、所定の日までに、学位論文又は研究の成果についてはその報告書（以下「修士課程の学位論文等」という。）及びその要旨を研究科あてに提出するものとする。

- 2 修士課程の学位論文等及びその要旨は、日本語又は英語で作成するものとする。ただし、学位論文を英語で作成した場合の要旨は、原則として日本語で作成するものとする。
- 3 前2項の規定にかかわらず、経営学修士コース金融戦略・経営財務プログラムについては、修士課程の学位論文等及びその要旨の提出時期は年2回とし、研究科長あてに提出するものとする。
- 4 第1項及び第3項の規定にかかわらず、別に定めるところにより、電子データによる提出を認めることができる。

(修士課程の学位論文等の審査及び最終試験)

第23条 修士課程の学位論文等の審査及び最終試験は、2名の審査員によって行う。審査員は、修士課程の学位論文等の題目に基づき、研究科教授会において選出する。

- 2 最終試験は、第2年次の所定の期日（経営管理専攻経営学修士コース金融戦略・経営財務プログラムについては、学位論文の審査終了後1月以内）までに、修士課程の学位論文等を中心として、これに関連ある学科について口頭試問により行う。ただし、一橋大学学則（平成16年規則第2号）第66条第1項ただし書及び同条第2項に該当する者については、研究科教授会の定めるところによる。

(博士後期課程経営管理専攻研究者養成コースにおける学位論文計画書の提出)

第24条 博士後期課程経営管理専攻研究者養成コースに所属する者は、学位論文計画書を、博士後期課程2年次以降、論文指導委員会あて、研究科教授会が定める日までに提出するものとする。

- 2 前項の規定にかかわらず、別に定めるところにより、電子データによる提出を認めることができる。
- 3 博士後期課程経営管理専攻研究者養成コース（イノベーション・マネジメント・プログラムを除く。）において、論文指導委員会は、2年次以上に在学する者が、研究指導教員による論文指導を受けた上で、研究指導教員を含む2名の教員に申請し、その承認を得た上で設立するものとする。論文指導委員会は、所定の日までに研究科長あてに設立の報告をするものとする。
- 4 博士後期課程経営管理専攻研究者養成コースイノベーション・マネジメント・プログラムにおいて、論文指導委員会は、2年次以上に在学する者が、演習指導教員を含む2名の教員に申請し、その承認を得た上で設立するものとする。論文指導委員会は、所定の日までに研究科長あてに設立の報告をするものとする。

(博士後期課程経営管理専攻研究者養成コースにおける学位論文計画書の審査)

第25条 博士後期課程経営管理専攻研究者養成コースにおける学位論文計画書の審査は、論文指導委員会が行い、所定の日までに、研究科長あてに審査の報告を行うものとする。

(博士後期課程経営管理専攻金融戦略・経営財務プログラム在学者の学位論文提出資格審査)

第26条 博士後期課程経営管理専攻金融戦略・経営財務プログラム在学者の学位論文提出資格審査（以下「資格審査」という。）は、博士後期課程1年次又は2年次（休学期間を除く。）の学期末に行う。

- 2 博士後期課程経営管理専攻金融戦略・経営財務プログラム在学者が資格審査を受けようとする場合は、所定の期日までに学位論文計画書を研究科長あてに提出するものとする。
- 3 前項の規定にかかわらず、別に定めるところにより、電子データによる提出を認めることができる。
- 4 博士後期課程経営管理専攻金融戦略・経営財務プログラム在学者の資格審査は、2人の審査員に

よって行う。

- 5 前項の審査員は、研究科教授会において選出する。
- 6 資格審査は、学位論文計画書の審査及び関連ある学科について筆記又は口頭試問により行う。
- 7 資格審査の評価は、合格又は不合格とする。
- 8 審査員は、資格審査の結果を研究科長に報告するものとする。

(博士後期課程国際企業戦略専攻在学者の学位論文提出資格審査)

第27条 博士後期課程国際企業戦略専攻在学者の学位論文提出資格審査(以下「資格審査」という。)は、博士後期課程2年次(休学期間を除く。)以降に行う。

- 2 博士後期課程国際企業戦略専攻在学者が資格審査を受けようとする場合は、所定の期日までに学位論文計画書を研究科長あてに提出するものとする。
- 3 前項の規定にかかわらず、別に定めるところにより、電子データによる提出を認めることができる。
- 4 博士後期課程国際企業戦略専攻在学者の資格審査は、3人の審査員によって行う。
- 5 前項の審査員は、研究科教授会において選出する。
- 6 資格審査は、学位論文計画書の審査及び関連ある学科について筆記又は口頭試問により行う。
- 7 資格審査の評価は、合格又は不合格とする。
- 8 審査員は、資格審査の結果を研究科長に報告するものとする。

(博士後期課程経営管理専攻研究者養成コース在学者の学位論文の提出)

第28条 博士後期課程経営管理専攻研究者養成コース在学者の学位論文及びその要旨並びにそれらの電子データを、所定の日までに、研究科長あてに提出するものとする。なお、参考論文、書評等を添付することができる。

- 2 学位論文の題目等所定の事項は、所定の日までに、研究科長に届け出なければならない。
- 3 前2項の規定にかかわらず、別に定めるところにより、電子データによる提出を認めることができる。
- 4 学位論文及びその要旨は、日本語又は英語で作成するものとする。ただし、主論文を英語で作成した場合の要旨は、原則として日本語で作成するものとする。

(博士後期課程経営管理専攻金融戦略・経営財務プログラム在学者の学位論文の提出)

第29条 博士後期課程経営管理専攻金融戦略・経営財務プログラム在学者の学位論文の提出時期は年2回とし、学位論文及びその要旨、並びにそれらの電子データを研究科長あてに提出するものとする。なお、参考論文、書評等を添付することができる。

- 2 前項の規定にかかわらず、別に定めるところにより、電子データのみによる提出を認めることができる。

(博士後期課程国際企業戦略専攻在学者の学位論文の提出)

第30条 博士後期課程国際企業戦略専攻在学者の学位論文の提出時期は年2回とし、学位論文及びその要旨、並びにそれらの電子データを研究科長あてに提出するものとする。なお、参考論文、書評等を添付することができる。

- 2 前項の規定にかかわらず、別に定めるところにより、電子データのみによる提出を認めることができる。

(博士後期課程在学者の学位論文審査及び最終試験)

第31条 博士後期課程在学者の学位論文審査及び最終試験は、3名以上の審査員によって行う。審査員は、提出された学位論文の題目に基づき、研究科教授会において選出する。

- 2 学位論文審査の期間は、原則として次のとおりとする。

- 一 博士後期課程経営管理専攻(金融戦略・経営財務プログラムを除く。)においては学位論文提出期限後4月以内
- 二 博士後期課程経営管理専攻金融戦略・経営財務プログラムにおいては学位論文提出期限後3月以内
- 三 博士後期課程国際企業戦略専攻においては学位論文提出期限後3月以内

- 3 最終試験は、学位論文審査終了後1月以内に行う。

(博士後期課程在学者の学位授与の審議)

第32条 博士後期課程在学者については、各審査員の報告に基づき、研究科教授会において審議し、

投票により学位を授与すべきか否かを議決する。

- 2 前項の規定により、議決する場合は、構成員の2分の1以上の出席を必要とし、出席者の3分の2以上の賛成がなければならない。
- 3 研究科教授会が第1項の議決をしたときは、研究科長は、速やかにその結果を文書により学長に報告しなければならない。

(国際企業戦略専攻における学位論文の博士課程単位修得論文としての認定)

第33条 博士後期課程国際企業戦略専攻在学者の学位論文の審査に合格しない者が退学を願い出たときは、研究科教授会の議を経て、当該学位論文審査をもって、博士課程単位修得論文審査とみなし、かつ、当該学位論文を博士課程単位修得論文として取り扱うことができる。

(博士課程単位修得者の取扱い)

第34条 博士課程単位修得者は、単位を修得した年度の末日をもって退学する。ただし、国際企業戦略専攻の博士課程単位修得者は、国際企業戦略専攻教授会の定める日をもって退学するものとする。

- 2 前項の規定にかかわらず、研究科教授会の議を経て、許可を得たときは、その後も在学することができる。

(試問の免除)

第35条 博士課程単位修得者が、退学の年から5年以内に学位論文を提出したときは、一橋大学学位規則(平成16年規則第72号)(以下「学位規則」という。)第8条第2項に定める試問は免除する。ただし、経営管理専攻研究者養成コースにおいては第25条に定める学位論文計画書の審査に合格した者に限る。

(論文提出による学位申請者の学位論文の提出)

第36条 学位規則第5条第3項の規定による学位申請者が学位論文を提出する場合は、同規則第7条に定めるもののほか必要な事項は、第28条の規定を準用する。

附 則

この細則は、平成30年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成30年9月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成31年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、令和元年9月1日から施行する。

附 則

この規則は、令和2年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、令和2年9月1日から施行する。

附 則

この規則は、令和3年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、令和3年7月7日から施行し、改正後の一橋大学大学院経営管理研究科細則第3条、第4条第6号、第7条、第10条第6項、第11条第6項の規定は、令和3年4月1日から、適用する。

附 則

この規則は、令和4年4月1日から施行する。

8. イノベーション研究センター

沿革

本研究センターの前身である商学部附属産業経営研究施設は昭和19年11月、産業経済の実証的研究を行う学内機関として発足した。

平成9年4月、学内共同教育研究施設として改組された。イノベーションの社会的プロセスを集中的に研究する拠点として、日本で最初に創られたのが本イノベーション研究センターである。平成24年4月からは商学研究科(平成30年4月からは経営管理研究科)の附属研究施設となり、体系的かつ実証的な研究を行うイノベーションの研究拠点として、世界に向けてその成果を発表している。さらに、平成25年4月には、イノベーションマネジメント・政策プログラム(IMPP)を立ち上げた。教育と研究が一体化したサーティファイカープログラムとして、日本および国際社会がイノベーションを生み出す能力を強化・向上させる上での学術的基盤を担う人材の育成を行っている。

イノベーション研究センターのビジョン

イノベーション研究のプラットフォーム(場)

センター内の研究者は、イノベーションという統一的な切り口を共有した上で、多様な学識と経験を生かしながら水準の高い研究を進めている。同時に、国内外を問わず他大学や企業、官界から人々が集まり、自由な討論を行い、共同で研究を進めていく場としても機能しており、その研究成果は積極的に国内外に発信されている。

さらにイノベーションを社会プロセスとして研究するだけでなく、産業界との共同研究、また、他大学・企業・官庁からの非常勤研究員も受け入れている。

本研究センターでの研究が、閉塞感に陥っている日本の企業組織や市場、さらにはイノベーション促進のための政策や制度枠組みを創造的に破壊して新しい発展段階へと進化していく上での重要な契機になるものと信じている。

問題発見・解決牽引型の知識創造

本センターは研究のための研究ではなく、現実社会の問題解決への要請を牽引役とする共同研究活動を重視している。そのために特定の問題解決事例に基づいたケースの作成、特定の問題に焦点を当てたセミナーやワークショップの開催などを積極的に進めている。

イノベーション研究の「グローバルハブ」

現在、イノベーション研究は世界的な広がりを持って活発に各地域で行われている。本センターはイノベーションに関する研究の国際的な交流の窓口として、そして国際的な研究ネットワークの拠点、グローバルハブとして、大きな役割を担ってきた。具体的には、世界各国の大学からイノベーション研究の研究者を外国人客員研究員として招くと同時に、イノベーションをテーマとした国際的なコンフェレンスも開催してきている。

研究領域

技術革新研究・経営革新研究

イノベーションの研究において、大切なことは、現実のイノベーションの実態を詳細に把握したうえで、いかなる要因がイノベーションを促進しているのかを実証的に明らかにすることである。

革新者研究

イノベーションの実態をより深く掘り下げていくためには、遂行主体である革新者の特徴を実証的に把握する研究も重要になることは言うまでもない。

ネットワーク研究

また、イノベーション活動を行う主体間（個人、企業、大学など）のつながりやネットワークに関する分析は、社会プロセスとしてのイノベーションの実証研究では欠くことができない。

経営史研究・技術史研究

これらの実証研究をより大きな視野で位置づけていくためには、背後にある歴史的コンテキスト（事情）を理解し、イノベーションの発展プロセスを経時的に追求することが研究分野に必要となる。

イノベーション制度研究

そのほか、知的財産権といった法制度や、その他金融・会計制度などイノベーションの生成に関わるインフラストラクチャーの把握を進める研究分野も不可欠である。

知識経営研究

イノベーションは、本質的に知識の創造活動を伴う。知識創造という視座からイノベーションを理論的、実証的に捉える研究は、日本がリードしてきた重要な領域である。

国際比較研究

さらに、これらの研究はすべて国内に限らず、世界各国での現象にも目を向けて行われ、具体的に国際的な比較実証研究を行う分野も独立して設定されている。

刊行物

- 1 一橋ビジネスレビュー（年4回、東洋経済新報社から発刊）
- 2 ANNUAL REPORT（日本語版は毎年、英語版は隔年発刊）